

令和2年度
授業要項 SYLLABUS
作業療法学科



学校法人 勝浦学園

徳島医療福祉専門学校

基礎分野

科目名	心理学	1 単位 30時間	1 学年 前期
講師名	川野卓二		
科目の概要	人の心や精神を科学としての心理学の方法を用いて理解するための枠組みとなる基本的な事柄を授業で取り上げる。心理現象を様々な立場から理解し判断できるようになるために必要な基礎知識を習得することを目的とする。		
回数	講 義 内 容		
1	序：心理学とは？ なんのために学ぶのか？		
2	適応と不適応		
3	行動と欲求・動機づけ		
4	パーソナリティ		
5	対人認知と社会的態度		
6	コミュニケーション		
7	集団の働きとリーダーシップ		
8	成長と発達		
9	知能と創造性		
10	知覚・認知と経験		
11	記憶と忘却		
12	感情・情動と行動		
13	本能的行動と学習行動		
14	心理学の方法		
15	さまざまな心理学		
16	心理学のこれから		
17	定期試験		
18			
教科書及び参考書	教科書：サトウタツヤ・渡邊芳之（著）「心理学・入門」有斐閣アルマ		
教授方法	講義		
教材	適宜、資料を配布する		
成績評価	まとめノート（30％）・課題（20％）・定期試験（50％）を総合評価する		
	備考		
(1日に2コマの授業を隔週で行う予定です。)			

科目名	心理学	1 単位 30時間	1学年 後期
講師名	川野卓二		
科目の概要	患者に対する実践的な応用心理学の理解と自己理解を基盤にした自己実現に向けた演習を行う。医療従事者として現場における即効的・実践的な知識・技術を習得するために、一般心理学の知識を踏まえて社会人基礎力の基礎を獲得することを目的とする。		
回数	講 義 内 容		
1	今後必要とされる力：社会人基礎力(1)		
2	心の問題と問題解決		
3	患者の心理と援助		
4	病気と不安		
5	障害者の心理と援助		
6	社会人基礎力(2)		
7	発達・成長の心理学		
8	自己理解の方法		
9	学習方法		
10	社会人基礎力(3)		
11	コミュニケーション：文章力・会話力		
12	人間関係・協働力		
13	ストレスマネジメント		
14	恋愛・結婚・家族形成		
15	心理的健康と幸福感		
16	定期試験		
17			
18			
教科書及び参考書	なし		
教授方法	講義と演習		
教材	適宜、配布資料を用いる		
成績評価	まとめノート（30％）課題（20％）定期試験（50％）を総合的に評価する		
	備考		

科目名	文学	1 単位 30時間	1学年 前期
講師名	余郷裕次		
科目の概要	子どもが最初に接する文学である絵本を取り上げて、その視覚表現と文字表現とのメカニズムを明らかにする。また、文学（絵本）を享受する側のメカニズムを視覚と聴覚との両面から明らかにする。さらに、日本の伝統的短詩形文学である短歌を取り上げて、短歌の実作に取り組む。		
	講 義 内 容		
	1. 絵本の視覚表現について、次の観点から講義する。 ① フロントリティー（正面性） ② 画面構成 ③ 色の効果 ④ 進行方向 ⑤ 絵本モンタージュ 2. 絵本の文字表現について、次の観点から講義する。 ① 繰り返し表現 ② 物語性 ③ 文字のデザイン 3. 絵本を享受するメカニズムについて、次の観点から講義する。 ① ベビーシェマ（赤ちゃんの顔）の効果 ② 色の効果 ③ 母親語（motherese）の効果 4. 短歌を取り上げて、自作に取り組む。 ① 短歌創作の基礎 ② 短歌の創作 ③ 短歌の連作の創作 ④ 歌集の制作		
教科書及び参考書	余郷 裕次 著 『絵本のひみつ－絵本の知と読み聞かせの心－』 徳島新聞社		
教授方法	講義		
教材	配付プリント		
成績評価	出席、講義への参加態度、レポート、定期試験等を総合的に評価する		
	備考		

科目名	教育学	1 単位 30時間	1学年 後期
講師名	湯地宏樹		
科目の概要	本授業は、本学のカリキュラムにおける【基礎分野】に位置づけられる科目である。 「教育とは何か」について、理学療法士、作業療法士としての自分の問題として振り返ることを目的としている。そのために、保健・医療・福祉の分野と保育・教育学の分野との接点を探りながら、乳幼児期からの人間の成長と発達における教育の意義について考察するとともに、学習指導や生活指導の方法や技術について具体的に学んでいく。		
回数	講 義 内 容		
1	社会の中の看護と教育		
2	教育とはなにかー「教育」の概念		
3	教育の対象ー子ども観と発達		
4	社会変動と教育		
5	教育の組織化ー学校		
6	教授ー人を教えるということ		
7	訓育ー他者とのかかわりを導く		
8	養護ー教育の受け手を見まもる		
9	発達ー教育を受けて成長する		
10	学びの場ー学校と家庭		
11	教育の目標と評価		
12	教育のメディアー教育をデザインする		
13	教育の担い手ー専門性と専門職性		
14	教育の場をつくるしくみ		
15	まとめ		
16	定期試験		
教科書及び参考書	『系統看護学講座 基礎分野教育学(第7版)』医学書院, 2015年 (ISBN978-4-260-02003-9)		
教授方法	授業はおもに講義形式で行う。		
教材	視聴覚教材を使用する。また随時、資料を配布する。		
成績評価	定期試験 (50%)、レポート課題 (30%)、授業への参加度 (20%) を総合的に評価する。		
	備 考		
授業はプレゼンテーションソフトを用いて行うので、ノートを活用すること。			

科目名	社会学	1 単位 30時間	1 学年 前期
講師名	平井 昭夫		
科目の概要	社会学の目的は、(1)私たちの身近にある様々な社会現象を学びつつ、(2)社会学的な思考力を身につけていくことにある。講義では、学ぶことを通じて、私たちを取り巻く世界を知り、社会のしくみを理解する。そして自分はどのような社会を生きており、そこで何をしたいのか、何ができるのかを考える出発点としたい。具体的には、①私たちの社会にかかわる様々な課題を取り上げ、いかに考え対処していくのか、②古今東西のリーダーが残した言葉を学び、現代社会に生きる私たちの在り方や役割は何か、などを柱に学習する。加えて、将来の職業人としての資質を養う。		
回数	講 義 内 容		
1	1. 社会学を学ぶ意義 ○講義の内容・進め方等についてオリエンテーションを実施		
2	2. 格差と貧困	○なぜ格差問題か	○格差は拡大しているか
3	格差と貧困	○現代社会の貧困	●リーダーに学ぶ(1)
4	3. 恋愛と結婚	○恋愛と結婚の関係	○日本の家族の歴史
5	恋愛と結婚	○結婚と家族の現在	
6	4. ジェンダー	○ジェンダーを理解する	○グローバル化する性別役割分業
7	5. 関係性と暴力	○DVを理解する	○ハラスメントを理解する
8	関係性と暴力	○なぜ暴力に頼るのか	●リーダーに学ぶ(2)
9	6. 権力	○社会学における権力論	○私たちをとりまく権力
10	権力	○権力作用としての差別	●リーダーに学ぶ(3)
11	7. 儀礼と自己	○現代の儀礼	○自己をめぐる社会学
12	8. 自殺	○現代日本の自殺	○社会学における自殺論
13	9. 医療	○近代医療を理解する	○民族医療と代替医療
14	医療	○医療化する社会	●リーダーに学ぶ(4)
15	10. 社会の中で働くこと	○感情労働の発見	○感情労働としてのケア ●リーダーに学ぶ(5)
	定期試験		
教科書及び参考書	教科書は使用しない		
教授方法	講義が単調にならないように配慮し、「穴埋め式」のプリントを作成・配布し、学生は講義を聞き記入しながら学習する。また、いくつかのテーマを与えレポートの提出を求める。		
教材	講義用「穴埋め式」のプリント、資料プリント、レポート用紙…講師のほうで準備する。		
成績評価	課題提出(10回程度) … 1 回 3 点を標準とし30点満点、試験…70点満点とする。		
備 考			
講義、レポートの提出・返却等を通じて、学生とのコミュニケーションを図る。			

科目名	物理学	1単位 30時間	1学年 前期
講師名	和田英作		
科目の概要	人体の骨格や筋は力学と、血流や血圧は流体と、神経や心電、脳波は電気と関係があり、物理学は医学の基本として重要なものであることを理解する。また、物理学の本質である論理的にものを考える力を体得する。		
回数	講 義 内 容		
1	物理学の内容、物理学を支える5本柱（力学、熱学、波学、電気学、量子学）		
2	物理量の基本単位（MKSA単位系）、原子構造		
3	1. 力学の世界（1）位置（2）速度（3）加速度		
4	（4）ベクトルと物理量（5）力と運動		
5	（6）円運動と単振動		
6	（7）運動量と衝突		
7	（8）仕事量とエネルギー（9）つり合いと変形		
8	2. 熱の世界（1）温度（2）熱量（3）物質の三態		
9	3. 流体の世界（1）流体と浮力（2）流体の性質		
10	（3）連続の式と注射（4）血圧と注射		
11	4. 波と光と音の世界（1）波の表し方（2）波の進行速度		
12	（3）光と色（4）レンズと光の屈折（5）音の3要素		
13	5. 電気と磁気の世界（1）電荷・電場・電流（2）交流		
14	6. 放射線と微視の世界（1）物質の微視的階層と4つの力		
15	（2）放射線の発生（3）放射線の医療への利用		
16			
教科書及び参考書	中村正博：「看護・医療技術者のためのたのしい物理」日本理工学出版社		
教授方法	物理学各分野と医療との関わりを説明し、理解を深めるため例題を解説する		
教材	演習問題のプリントを配付する		
成績評価	定期試験の成績で評価する		
	備考		
物理学に興味を持ち受講して欲しい。			

科目名	生物学	1 単位 30 時間	1 学年 前期
講師名	山口 寛		
科目の概要	理学療法士、作業療法士として必要な生物学の基礎知識を広く学習する。 細胞、組織器官、器官系の構造と働き、物質代謝とエネルギー代謝、恒常性の維持などについて科学的に学習していく。		
回数	講 義 内 容		
1	第 1 章 生物と細胞		
2	細胞の構造と機能		
3	細胞の構造と機能（細胞の増殖と測定）		
4	第 2 章 個体の成り立ち（組織）		
5	個体の成り立ち（器官）		
6	個体の成り立ち（器官系）		
7	第 3 章 細胞生理 原形質の化学組成		
8	細胞膜の働き		
9	第 4 章 生体内の物質の流れと働き		
10	物質代謝（同化）		
11	物質代謝（異化）		
12	異化生成物（腎臓の構造と働き）		
13	第 5 章 からだの恒常性の維持		
14	内部環境としての体液（血液の働きと血液型）		
15	血液によるからだの防衛（抗原抗体反応）		
16			
教科書及び参考書	新体系看護学基礎科目「生物学」 メディカルフレンド社 生物辞典 旺文社		
教授方法	講義、 演習		
教材	必要に応じて資料作成		
成績評価	定期試験、レポート		
	備考		
受講に対する留意点など：予習と復習に励む。			

科目名	生物学	1 単位 30時間	1学年 後期
講師名	山口 寛		
科目の概要	前期に継続して学習を進める。 後期では、からだの恒常性維持、神経系とその働き、刺激と反応、生命の連続性について、DNA中心に分子生物学についても学習する。		
回数	講 義 内 容		
1	第5章 からだの恒常性の維持		
2	神経系とその働き		
3	第6章 外的刺激の受容		
4	感覚器とその働き		
5	からだの内部感覚		
6	第7章 生殖 減数分裂		
7	生殖と受精		
8	第8章 発生 発生の順序		
9	ヒトの発生		
10	発生のしくみ（オルガナイザー等）		
11	第9章 遺伝 メンデルの法則		
12	連鎖と交叉		
13	ヒトの遺伝（血液型、色盲、血友病等）		
14	核酸DNA等の構造と働き		
15	たんぱく質と形質発現、遺伝子組み換えについて		
16			
17			
18			
教科書及び参考書	新体系看護学基礎科目 「生物学」 メディカルフレンド社 生物辞典 旺文社		
教授方法	講義、問題演習		
教材	必要に応じて資料（プリント）作成		
成績評価	定期試験、レポート		
	備考		
受講に際する留意点など：予習と復習に励む。			

科目名	統計学	1 単位 30時間	1 学年 前期
講師名	小柴俊彦		
科目の概要	データの取り方，まとめ方，統計的推測の基本的考え方を学習し “ 統計学に基づく考え方” を養う。 学習内容：1. データの整理（1次元データ，2次元データ） 2. 代表値と散布度，相関係数 3. 確率変数と確率分布（正規分布と応用， t 分布等） 4. 統計的推測の考え方と検定の方法		
回数	講 義 内 容		
1	1. データの整理		
2	(1) 度数分布表 (2) 度数分布表の図示（ヒストグラム，度数折線）		
3	2. 代表値と散布度，相関係数		
4	(1) 代表値		
5	(2) 散布度		
6	(3) 相関係数		
7	3. 確率変数と確率分布		
8	(1) 確率変数		
9	(2) 正規分布		
10	(3) いろいろな確率分布		
11	4. 統計的推測		
12	(1) 統計的推測の考え方		
13	(2) 母平均の検定		
14	(3) 母平均の差の検定（Ⅰ）		
15	(4) 母平均の差の検定（Ⅱ）		
16	(5) いろいろな検定		
教科書及び 参考書	「基 礎 統 計」著者 高遠節夫他 2 名：培風館		
教授方法	プロジェクターを用いての講義と演習		
教材	配布資料		
成績評価	定期試験と演習課題		
	備 考		
授業中に指示された演習課題は必ず提出すること。			

科目名	英語	1 単位 30時間	1 学年 前期
講師名	三浦 博		
科目の概要	今日、病院を訪れる外国人が増えているし、また医療の現場で使われる英語もある。この授業は英会話を聞いて理解し、また病院などで使われる英語に関して理解力を高めるのが目的である。教科書は下記の2冊を使う。教科書①は英会話の理解力を高めるために使う。毎週授業毎に1 Lessonずつ進む。教科書②は病院の現場を想定して作られたテキストであり、病院の治療現場に関係した会話、用語が多く使われている。このテキストは毎週使うが、進むスピードに関しては毎週1 Unitずつ進むのではなく、時間の許すかぎり前に進んでいくという形になる。さらに、授業の途中でリラックスする目的で英語の歌が紹介される。		
回数	講 義 内 容		
1	教科書① Lesson 1)	“Description”	「Unit 1」
2	〃 Lesson 2)	“Recorded Messages”	「Unit 1」
3	〃 Lesson 3)	“Conversation 1”	「Unit 1」
4	〃 Lesson 4)	“Position”	「Unit 2」
5	〃 Lesson 5)	“Math Quiz 1”	「Unit 2」
6	〃 Lesson 6)	“Announcement”	「Unit 3」
7	〃 Lesson 7)	“Graph 1”	「Unit 3」
8	〃 Lesson 8)	“News”	「Unit 4」
9	〃 Lesson 9)	“Quick Response”	「Unit 4」
10	〃 Lesson 10)	“On the Radio”	「Unit 5」
11	〃 Lesson 11)	“Interview on the Street”	「Unit 5」
12	〃 Lesson 12)	“Speech”	「Unit 6」
13	〃 Lesson 13)	“Conversation 2”	「Unit 6」
14	〃 Lesson 14)	“Math Quiz 2”	「Unit 7」
15	〃 Lesson 15)	“Report”	「Unit 7」
	定期試験		
教科書及び参考書	① 「Hyper Listening (Intermediate)」 3rd Edition 桐原書店 ② 「20Medical Dialogs」 古閑博美、垂石幸与、他著 鷹書房弓プレス		
教授方法	講義、演習、小テスト		
教材	教科書2冊、講師作成のプリント、CD		
成績評価	定期試験		
	備考		
教科書②に関して、毎週授業ごとに前の週の内容に関する小テストを実施する。また、教科書①に関してはCDがついており、各人が各人クラスへ来る前にCDで家庭学習できるようになっている。			

科目名	医学英語	1 単位 30 時間	1 学年 後期
講師名	三浦 博		
科目の概要	卒業後理学療法士、作業療法士として働くとき、英語で書かれた本や論文を読む必要が出てくるかもしれない。その時のために、医療の現場でよく使われる英語表現に慣れ親しんでおくというのがこの授業の目的である。教科書は2冊使う。教科書①は前期から継続して使うものであり、教科書②は長文を学習するために使用される。		
回数	講 義 内 容		
1	教科書① 「Unit 10 : 1」	リハビリ室での会話	教科書② Chapter 1 : 1
2	〃 「Unit 10 : 2」	リハビリ室での会話	〃 Chapter 1 : 2
3	〃 「Unit 11 : 1」	基本的指示とリスク対策	〃 Chapter 2 : 1
4	〃 「Unit 11 : 2」	基本的指示とリスク対策	〃 Chapter 2 : 2
5	〃 「Unit 12 : 1」	関節可動域訓練	〃 Chapter 3 : 1
6	〃 「Unit 12 : 2」	関節可動域訓練	〃 Chapter 3 : 2
7	〃 「Unit 13 : 1」	早期座位とベッドサイド訓練	〃 Chapter 4 : 1
8	〃 「Unit 13 : 2」	早期座位とベッドサイド訓練	〃 Chapter 4 : 2
9	〃 「Unit 14 : 1」	車椅子と移乗動作	〃 Chapter 5 : 1
10	〃 「Unit 14 : 2」	車椅子と移乗動作	〃 Chapter 5 : 2
11	〃 「Unit 15 : 1」	マット上訓練	〃 Chapter 6 : 1
12	〃 「Unit 15 : 2」	マット上訓練	〃 Chapter 6 : 2
13	〃 「Unit 16 : 1」	立ち上がり訓練	〃 Chapter 7 : 1
14	〃 「Unit 16 : 2」	立ち上がり訓練	〃 Chapter 7 : 2
15	〃 「Unit 17 : 1」	歩行訓練	〃 Chapter 8 : 1
	定期試験		
教科書及び参考書	① 「20 MEDICAL DIALOGS : 木関博美、垂石幸与、他著 (鷹書房弓プレス) ② THE ART OF HEALING : 荒金房子、村上仁之、マーク・レモン著 (南雲堂) ③ 講師が作成したプリント		
教授方法	講義、演習、小テスト		
教材	教科書 2 冊、プリント、CD		
成績評価	定期試験		
	備考		
前の週の授業内容に関する小テストを実施する。このことにより、どれだけ身についたかが試される。			

科目名	保健学 講義	1単位 30時間	1学年 後期
講師名	三浦 哉		
科目の概要	本講義では、定期的な運動（トレーニング）による身体機能・構造の変化を主に運動生理学的な視点から概説し、生活習慣病の予防・健康づくりに関する身体の科学的側面を理解することを目的とする。		
回数	講 義 内 容		
1	わが国の健康関連状況		
2	トレーニングと骨格筋代謝		
3	トレーニングと呼吸循環機能Ⅰ		
4	トレーニングと呼吸循環機能Ⅱ		
5	トレーニングと神経		
6	トレーニングと骨		
7	筋力・持久力の発育・発達		
8	全身持久力の発育・発達		
9	トレーニングと加齢		
10	トレーナビリティと性差		
11	高血圧症と運動		
12	脂質異常症と運動		
13	糖尿病と運動		
14	肥満症と運動		
15	循環器疾患と運動		
16	認知症と運動		
17	転倒防止と運動		
18	運動強度の設定		
教科書及び参考書	なし		
教授方法			
教材	随時、参考資料を配付		
成績評価	出席、授業態度、定期試験から総合判断		
	備考		

科目名	体育学 講義	1 単位 30時間	1 学年 後期
講師名	三浦 哉		
科目の概要	本講義では一過性の運動による身体機能・構造の変化を主に運動生理学的な視点から概説し、健康づくりに関する身体の科学的側面を理解することを目的とする。		
回数	講 義 内 容		
1	身体組成		
2	骨格筋組成		
3	骨格筋の代謝		
4	呼吸機能		
5	循環機能Ⅰ		
6	循環機能Ⅱ		
7	最大酸素摂取量		
8	乳酸性作業閾値		
9	エネルギー消費量		
10	三大栄養素		
11	ビタミン、ミネラル		
12	運動時のエネルギー補給		
13	エネルギー摂取と消費との関係		
14	環境と身体機能Ⅰ		
15	環境と身体機能Ⅱ		
16	環境と身体機能Ⅲ		
17	環境と身体機能Ⅳ		
18	ドーピング		
教科書及び参考書	なし		
教授方法			
教材	随時、参考資料を配付		
成績評価	出席、授業態度、定期試験から総合評価		
	備考		

科目名	体育学 実習	1 単位 30時間	1 学年 前期
講師名	三浦 哉		
科目の概要	本講義では、健康づくりに関する身体の科学的側面を理解することで、自らの身体・健康に対する意識を高めると同時に、具体的な身体活動の方法を実践することを目的とする。		
回数	講 義 内 容		
1	オリエンテーション		
2	バレーボール（基礎的動作の習得）		
3	バレーボール（アンダーハンド、オーバーハンドの習得Ⅰ）		
4	バレーボール（アンダーハンド、オーバーハンドの習得Ⅱ）		
5	バレーボール（アンダーハンド、オーバーハンドの習得Ⅱ）		
6	バレーボール（スパイクの習得）		
7	バレーボール（コンビネーションプレーの習得Ⅰ）		
8	バレーボール（コンビネーションプレーの習得Ⅱ）		
9	バレーボール（戦術の習得）		
10	バスケットボール（基礎的動作の習得）		
11	バスケットボール（パスの習得）		
12	バスケットボール（ランニングシュートの習得）		
13	バスケットボール（1 v s. 1 のオフェンス、ディフェンスの習得）		
14	バスケットボール（2 v s. 1 のオフェンス、ディフェンスの習得）		
15	バスケットボール（3 v s. 2 のオフェンス、ディフェンスの習得）		
16	バスケットボール（戦術の習得）		
17	ウォーミングアップ、クーリングダウンの効果		
18	スポーツマッサージの効果		
教科書及び参考書	なし		
教授方法			
教材			
成績評価	出席、授業態度、定期試験から総合評価		
	備考		

專 門 基 礎 分 野 1 学 年

科目名	解剖学 講義	2単位 60時間	1学年 前期
講師名	木戸玲子		
科目の概要			
回数	講 義 内 容	回数	講 義 内 容
1	解剖学とは。骨格（１） 総論	17	筋系（１） 総論、頭部の筋
2	骨格（２） 脊柱	18	骨学・関節学実習（４）
3	骨格（３） 胸郭、上肢①	19	筋系（２） 頸部の筋
4	骨格（４） 上肢②	20	筋系（３） 背部の筋
5	骨格（５） 下肢①	21	筋系（４） 胸部の筋
6	骨格（６） 下肢②	22	筋系（５） 腹部の筋
7	骨格（７） 頭蓋①	23	筋系（６） 上肢の筋①
8	骨格（８） 頭蓋②	24	筋系（７） 上肢の筋②
9	関節・靱帯（１） 総論、頭蓋の連結	25	筋系（８） 上肢の筋③
10	関節・靱帯（２） 脊柱の連結	26	筋系（９） 下肢の筋①
11	関節・靱帯（３） 上肢の連結	27	筋系（10） 下肢の筋②
12	骨学・関節学実習（１）	28	筋系（11） 下肢の筋③
13	関節・靱帯（４） 下肢の連結①	29	筋系（12） 筋の神経支配①
14	骨学・関節学実習（２）	30	筋系（13） 筋の神経支配②
15	関節・靱帯（５） 下肢の連結②	31	
16	骨学・関節学実習（３）	32	
教科書及び 参考書	1）日本人体解剖学（改訂第20版、上・下） 南山堂 2）PT・OT・STのための解剖学 廣川書店		
教授方法	パワーポイント、板書、プリント、実習		
教材			
成績評価	定期試験（筆記試験）を行う。不合格者は再試験を行う。		
備考			

科目名	解剖学 講義	1 単位 30時間	1 学年 後期
講師名	羽地達次		
科目の概要	末梢神経を理解することで、中枢とのつながり（上行性、下行性伝導路）を把握し身体の運動と知覚の理解を深める。		
回数	講 義 内 容		
1	脳の発生		
2	脊髄神経と神経叢		
3	頸神経叢とその枝		
4	腕神経叢とその枝 ①		
5	〃 ②		
6	胸神経		
7	腰神経叢とその枝		
8	仙骨神経叢とその枝 ①		
9	〃 ②		
10	上肢と下肢の発生にともなう神経分布		
11	脳神経 （1～7 番）		
12	〃 （8～12 番）		
13	脳幹における脳神経核		
14	下行性（運動性）伝導路		
15	上行性（知覚性）伝導路		
教科書及び参考書	「PT・OT・STのための解剖学」 廣川書店 「日本人体解剖学（上） 改訂20版」金子丑之助 著 南山堂		
教授方法	主として教科書と参考書を利用して、PowerPointを用いて解説する。		
教材	適宜に他の本からPowerPointを作成して配布する。		
成績評価	授業の終了後、定期試験を行って評価する。		
	備考		
授業の前半に前回の復習をする。			

科目名		解剖学 実習		2単位（分担講義） 60時間／90時間		1学年 後期	
講師名		木戸玲子					
科目の概要							
回数	講義内容			回数	講義内容		
1	細胞			17	消化器（2）		
2	上皮組織			18	消化器（3）		
3	結合組織（1）			19	泌尿器		
4	結合組織（2）			20	皮膚		
5	軟骨組織			21	感覚器（1）		
6	骨組織			22	感覚器（2）		
7	血液（1）			23	感覚器（3）		
8	血液（2）			24	生殖器（1）		
9	筋組織			25	生殖器（2）		
10	神経組織			26	生殖器（3）		
11	脈管系（1） 心臓			27	内分泌器（1）		
12	脈管系（2） 動脈系①			28	内分泌器（2）		
13	脈管系（3） 動脈系②、静脈系、リンパ管系			29	発生学（1）		
14	リンパ系組織			30	発生学（2）		
15	呼吸器			31			
16	消化器（1）			32			
教科書及び参考書		1）日本人体解剖学（改訂第20版、上・下） 南山堂 2）PT・OT・STのための解剖学 廣川書店					
教授方法		パワーポイント、板書、プリント、実習					
教材							
成績評価		定期試験（筆記試験）を行う。不合格者は再試験を行う。					
備考							

科目名	解剖学 実習	2単位（分担講義） 30時間／90時間	1学年 後期
講師名	羽地達次		
科目の概要	神経系の大もとニューロンを理解し、大脳と脊髄（中枢神経）の構造とそこから出る末梢神経の働きを理解する。		
回数	講 義 内 容		
1	神経とは何か、神経系の系統発生、ニューロン、髄鞘形成		
2	シナプス、神経の変性と再生、中枢神経と末梢神経の概念		
3	大脳の外表面の構造と名称		
4	大脳半球内側面の構造と名称		
5	大脳の機能局在（脳地図など）		
6	大脳内部の構造と名称（基底核など）		
7	〃	（内包、視床、脳室など）	
8	〃	（線維連絡など）	
9	脳幹の構造と名称	（外部から）	
10	〃	（内部、脳神経核、伝導路）	
11	小脳の構造と名称	（外部から）	
12	〃	（内部、小脳核、伝導路）	
13	小脳の働き（特に錐体外路系における役割）		
14	脊髄の構造（知覚と運動）		
15	脊髄神経、自律神経		
16			
17			
18			
教科書及び参考書	「PT・OT・STのための解剖学」 廣川書店 「日本人体解剖学（上） 改訂20版」金子丑之助 著 南山堂		
教授方法	主として教科書と参考書を利用して、PowerPointを用いて解説する。		
教材	適宜に他の本からPowerPointを作成して配布する。		
成績評価	授業の終了後、定期試験を行って評価する。		
	備考		
授業の前半に前回の復習をする。			

科目名	生理学 講義	1 単位 30 時間	1 学年 前期
講師名	北岡和義		
科目の概要	生理学は医療に従事するものにとって、正常な生体機能を知る上で非常に重要な学問である。人体諸器官の正常な機能を理解し、これらの器官が統合され、どのように生命が維持されるかについて学ぶ。また、適宜関連した細胞レベルのしくみにも触れ、理解を深める。		
回数	講 義 内 容		
	1. 生理学の基礎知識 生理学とは 生理学で用いる単位 水の性質 水の細胞膜透過 細胞の構造と機能 物質の細胞膜透過 膜の電位と興奮性 細胞の情報伝達機構 2. 神経のはたらき 神経系の構造 ニューロンとシナプス作用 神経の興奮と伝導 中枢神経 末梢神経 自律神経 3. 感覚 感覚の種類 感覚の一般的性質 感覚受容器の機能 体性感覚 内臓感覚 特殊感覚 4. 筋肉のはたらき 骨格筋の構造 骨格筋線維の構造 骨格筋線維のタイプ分類 骨格筋の収縮 ヒトの筋力 筋の障害		
教科書	人体生理学の基礎 改訂第 2 版 (医学出版社)		
教授方法	講義による		
成績評価	定期試験による		

科目名	生理学 講義	2 単位 60時間	1 学年 後期
講師名	江口 覚 (20時間) 北岡和義 (40時間)		
科目の概要	生理学は医療に従事するものにとって、正常な生体機能を知る上で、非常に重要な学問である。人体諸器官の正常な機能を理解し、これらの器官が統合され、どのように生命が維持されるかについて学ぶ。また、適宜関連した細胞レベルのしくみにも触れ、理解を深める。		
回数	講 義 内 容		
	5. 血液の作用 (江口先生) 血液の組成 血液型 止血 血液凝固 赤血球沈降速度 免疫性防衛系 6. 体液 (北岡先生) 体液量とその区分 体液の組成 水素イオン濃度と緩衝作用 体液の酸塩基平衡 水分の収支 体液の異常 7. 呼吸 (北岡先生) 呼吸器 呼吸運動 肺容量 換気 肺におけるガス交換 血液によるガスの運搬 肺循環 呼吸運動の調節 呼吸機能障害・異常 運動と呼吸 8. 循環と心臓のはたらき (江口先生) 心臓 血管	9. 食物の消化・吸収 (北岡先生) 消化器系の構成 口腔内の消化 胃における消化 小腸における消化 大腸における消化 排便 吸収 肝臓のはたらき 腸内細菌叢の生理作用 10. 尿の生成と排泄 (北岡先生) 機能からみた腎臓の解剖と生理機能 尿の生成と排泄 腎機能検査 腎臓のその他の機能 11. 体温調節のしくみ (北岡先生) 体熱のバランス 体温の調節 発汗 12. ホルモン作用 (江口先生) ホルモン作用の特色 臓器ホルモン 13. 生殖 (北岡先生) 性の決定 男性生殖器の機能 女性生殖器の機能	
教科書	人体生理学の基礎 改訂第2版 (医学出版社)		
教授方法	講義による		
成績評価	定期試験による		

科目名	運動学 講義	1 単位 30時間	1 学年 後期
講師名	田中弘之		
科目の概要	運動学は、解剖学や生理学等の基礎医学分野を礎として構築され、物理学、心理学、社会学等の多岐にわたる学際的領域の要素をも内包している。 本講では、理学療法や作業療法に有用となる運動学の学理的基礎に対する認識を深めるとともに、2年次に開講する運動学実習との連動によって、身体活動を科学的に解析する技能を修得することを目的とする。		
回数	講 義 内 容		
1	力学概論		
2	バイオメカニクス概論		
3	体力医科学概論		
4	運動学総論		
5	運動学各論：骨・関節系		
6	運動学各論：筋系		
7	運動学各論：神経系		
8	運動学各論：感覚器系		
9	運動学各論：呼吸器系		
10	運動学各論：循環器系		
11	運動学各論：代謝系		
12	運動学各論：内分泌系		
13	運動学各論：上肢帯と上肢		
14	運動学各論：下肢帯と下肢		
15	運動学各論：体幹		
16	運動学各論：姿勢		
17	運動学各論：歩行と走行		
18	運動生理学各論：体温調節と暑熱障害		
19	運動生理学各論：運動処方		
20	運動心理学各論：運動発達と運動学習		
教科書及び参考書	中村隆一著「基礎運動学 第6版 補訂」 医歯薬出版株式会社		
教授方法			
教材			
成績評価	定期試験等		
	備考		

科目名	人間発達学	1単位 30時間	1学年 後期
講師名	鈴木敏昭		
科目の概要	人の誕生から老年期までの生涯にわたる心身の成長・発達の概要を解説する。 その中で、人の各発達段階における身体生理的特徴、心理的社会的発達の特徴について具体的に学習し、理解を深め、その援助のあり方を追求して、活かせるようにする。		
回数	講 義 内 容		
1	はじめに：人間発達学のねらいと概要		
2	乳児期の身体的生理的特徴		
3	乳児期の心理的特徴と不適応問題		
4	幼児期の身体的生理的特徴と心理的特徴		
5	幼児期の心理的不適応問題		
6	児童期の身体的生理的特徴と心理的特徴		
7	児童期の心理的不適応問題		
8	青年期の身体的生理的特徴と心理的特徴		
9	青年期の心理的不適応問題		
10	成人期の身体的生理的特徴と心理的特徴		
11	成人期の心理的不適応問題		
12	老年期の身体的生理的特徴		
13	老年期の心理的特徴		
14	老年期の心理的不適応問題		
15	まとめと生涯発達心理を理解することの大切さについて		
16			
教科書及び参考書	参考書は適宜紹介する。		
教授方法	毎回プリントを配布しながら、心理テストをまじえて、講義する。		
教材	資料プリント		
成績評価	毎回の小提出物と定期試験などを総合的に評価。		
	備 考		

科目名	病理学	1 単位 30時間	1学年 前期
講師名	伊井邦雄 山下理子 渡邊俊介 清水真祐子		
科目の概要	病理学は疾患の原因、病態、症状、経過、合併症、予後を含め、すべての疾患の実 体を明らかにし疾患の治療のためにもっとも重要な基礎的及び実質的な事実を知る学問 である。総論としてはできるだけ広汎に、各論においては理学・作業療法士が実際に 接するであろう代表的な疾患について、できる限り具体的な事柄を詳しく教示する。 病理学は実学であるので、総論、各論を含めできるだけ実例を紹介する。		
回数	講 義 内 容		
1	第16章	造血器系	(山下)
2	第 1・2 章	病理学とは、細胞障害と増殖	(伊井)
3	第 9・10章	遺伝と先天異常、代謝	(清水)
4	第 3・4 章	修復・再生、循環障害	(伊井)
5	第15章	内分泌	(山下)
6	第 5・6 章	炎症、感染	(伊井)
7	第 7・8 章	免疫、腫瘍	(伊井)
8	第20・21・23章	皮膚、小児、病理診断	(渡邊)
9	第 13章	呼吸器	(伊井)
10	第14章 A・B	上部・下部消化管	(伊井)
11	第14章 C	肝臓・胆嚢・膵臓	(伊井)
12	第12章	循環器	(清水)
13	第18章 B・19章・22章	脳・神経系、男性生殖器、運動器	(伊井)
14	第17章	泌尿器	(渡邊)
15	第18章 A	女性生殖器・乳腺	(伊井)
16			
17			
18			
教科書及び参考書	「シンプル病理学 改訂第7版」 南江堂		
教授方法	講義、スライド等		
教材			
成績評価	定期試験による		
備考			
講義の順序については変更することがある			

科目名	予防作業療法学	単位数	1単位 30時間	開講年次	1学年 前期
担当教員	濱 敬介(作業療法士として実務経験6年)				
科目概要	「予防医学」「予防リハビリテーション」の概念を理解する。				
一般目標	予防リハビリテーションにおける作業療法の適応範囲を検討し、作業療法士の役割を学ぶ。				
行動目標	予防作業療法の目的と意義について説明できる。 予防に関連した評価について説明できる。 予防作業療法のプログラムについて説明できる。 自助・共助を促進する方法について説明できる。 健康づくり(ヘルスプロモーション)における作業療法について説明できる。				
回数	講 義 内 容				
1	わが国におけるヘルスプロモーション				
2	ヘルスプロモーションの関連法規と研究				
3	予防医学の分類(一次予防・二次予防・三次予防)				
4	公衆衛生活動における予防活動(学校保健、地域保健、産業保健)				
5	健康増進、生活習慣病予防、疾病予防について				
6	加齢による身体機能、精神・認知機能低下の特徴				
7	ヘルスプロモーションの進め方				
8	高齢者に対する評価(身体機能、精神・認知機能、活動能力)				
9	主要な疾患とヘルスプロモーションの実践①				
10	主要な疾患とヘルスプロモーションの実践②				
11	ヘルスプロモーションのための住環境整備				
12	介護予防の目的				
13	介護予防分野における作業療法士の役割				
14	地域包括ケアシステムと介護予防				
15	生活期における本人と家族に対する支援				
教科書 及び 参考書	理学療法士・作業療法士のためのヘルスプロモーションー理論と実践 南江堂				
教授方法	スライド講義、グループワーク				
教材	適宜プリント資料を配布する				
成績評価	前期試験を100%とし、そのうち60%で合格とする。				
備 考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

科目名	保健医療福祉論Ⅰ	単位数	1単位 30時間	開講年次	1学年 前期
担当教員	濱 敬介(作業療法士として実務経験6年) 廣田茂美(理学療法士として実務経験22年)				
科目概要	わが国における医療制度並びに医療保険制度、福祉制度の概要とその仕組み、社会資源の活用の在り方などについて教授する。 わが国における人口動態、平均余命、疾病構造の概要の理解を図るとともに、多様化する社会環境の中で、作業療法士に求められているニーズと役割についても教授する。 作業療法の対象となる主要な疾患や傷害などの概要を教授し、リハビリテーションへの理解促進を図る。				
一般目標	医療・保険・福祉制度の概要、疾病構造と主な疾患や障害について学習する。				
行動目標	・保健に関する法律や制度の概要を述べることができる。 ・医療に関する法律や制度の概要を述べることができる。 ・福祉に関する法律や制度の概要を述べることができる。 ・保健、福祉、医療制度の現状と将来についてその概要を述べることができる。 ・作業療法の対象となる主要な疾患や傷害の概要について述べることができる。				
回数	講 義 内 容				
1	国民衛生の動向と医療①:人口動態と人口動態・健康状態と受療状況				(廣田)
2	国民衛生の動向と医療②:医療と保健の動態、医療対策				(廣田)
3	医療保保険制度とリハビリテーション① :医療制度と医療保険制度				(廣田)
4	医療保保険制度とリハビリテーション② :リハビリテーションの体系				(廣田)
5	医療保保険制度とリハビリテーション③ :高齢化社会とリハビリテーション				(廣田)
6	福祉制度について① :制度の概要と仕組み				(廣田)
7	福祉制度について② :福祉制度とリハビリテーション				(廣田)
8	健康増進分野の概要と作業療法士の役割				(濱)
9	介護保険制度の概要と作業療法士の役割				(濱)
10	地域リハビリテーションの概要と作業療法士の役割				(濱)
11	作業療法の対象となる主要な疾患や障害について① :代謝系・運動器系障害				(濱)
12	作業療法の対象となる主要な疾患や障害について② :中枢神経障害				(濱)
13	作業療法の対象となる主要な疾患や障害について③ :生活習慣病・認知症				(濱)
14	作業療法の対象となる主要な疾患や障害について④ :サルコペニア・フレイルなど				(濱)
15	作業療法の動向と今後の展開について				(濱)
教科書 及び 参考書	入門リハビリテーション概論(医歯薬出版:教科書) 国民衛生の動向(厚生統計協会) 最新リハビリテーション医学(医歯薬出版) 医療福祉総合ガイドブック(医学書院)、その他適宜紹介する。				
教授方法	講義を主軸とする				
教材	プリント・資料、適宜視聴覚教材を用いる				
成績評価	前期試験により評価する				
配点割合	濱80%、廣田20%				
備考					
当該科目は実務経験のある教員等による授業科目である。					

科目名	リハビリテーション倫理学	単位数	1単位 30時間	開講年次	1学年 後期
担当教員	濱 敬介(作業療法士として実務経験6年) 菅村拓也(作業療法士として実務経験5年)				
科目概要	リハビリテーションを実施するうえで必要不可欠な医療倫理学の基礎を学ぶとともに、障害者を取り巻く環境や、リハビリテーション医療についての問題点を理解する。				
一般目標	作業療法士を取り巻く臨床場面における倫理的問題を理解し、作業療法士として倫理的な判断能力を身につける。				
行動目標	・倫理学の基本事項を説明できる。 ・医学倫理の原則を説明できる。 ・倫理的問題に対して解決策を提示できる。				
回数	講 義 内 容				
1	倫理学の概要				(濱)
2	プライバシーと守秘義務				(濱)
3	インフォームド・コンセント、医療情報の開示と説明、真実告知				(濱)
4	終末期医療について(安楽死・尊厳死、緩和医療)				(濱)
5	障害の概念、ノーマライゼーションの概念				(濱)
6	自立と生活の質(QOL)				(濱)
7	チーム医療と作業療法士の役割				(濱)
8	ケアと倫理				(濱)
9	医療倫理の原則				(濱)
10	臨床倫理学とは				(濱)
11	作業療法士の職業倫理と研究倫理				(濱)
12	作業療法士の職業倫理指針				(濱)
13	作業療法士の倫理に関わる事例(グループディスカッション)				(菅村)
14	作業療法士の倫理に関わる事例(グループディスカッション)				(菅村)
15	作業療法士の倫理に関わる事例(発表会)				(濱)
教科書 及び 参考書	教科書：医療倫理学のABC 第4版(メヂカルフレンド社) 参考書：作業療法管理学入門(医歯薬出版株式会社) 日本作業療法士協会 職業倫理指針				
教授方法	スライド講義、グループワーク				
教材	適宜プリント資料を配布する				
成績評価	前期試験を100%とし、そのうち60%で合格とする。				
配点割合	濱80% 菅村20%				
備考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

専 門 基 礎 分 野 2 学 年

科目名	生理学 実習	1 単位 45時間	2学年 前期
講師名	北岡和義		
科目の概要	1 年次で得た生理学の講義内容について、実習において自らデータ取得および考察を進めることにより深める。		
回数	講 義 内 容		
	オリエンテーション 実習 1. 表面筋電による記録 2. 心電図 3. 息こらえとバルサルバ試験 4. 深部感覚 5. 最大酸素摂取量 6. 酸素負債 7. H反射の測定 8. 2点識別閾		
教科書及び参考書	「コメディカルのための生理学実習ノート」 南江堂 標準理学療法学・作業療法学 生理学 第5版		
教授方法	学内実習		
教材			
成績評価	出席点 レポート点		
	備考		

科目名	運動学 実習	1 単位 45時間	2学年 前期
講師名	田中弘之		
科目の概要	1 年次の講義内容を実習において深める。		
回数	講 義 内 容		
	実習オリエンテーション 実習 1. 筋力測定 2. 循環機能 3. 呼吸機能 4. 感覚と知覚 5. 生体観察 6. 姿勢と歩行 7. 体力テスト 8. 筋電計とガス分析器操作 9. 筋の作用		
教科書及び 参考書	「基礎運動学 第6版 補訂」 医歯薬出版株式会社 「運動学実習手引き書」 配付		
教授方法	学内実習		
教材	「運動学実習手引き書」		
成績評価	出席点 レポート点		
	備考		

科目名	臨床心理学	1 単位 30 時間	2 学年 前期
講師名	古川洋和		
科目の概要	臨床心理学の基本的発想を理解する。 一般目標：医療従事者として必要な臨床心理学的発想を理解する。 行動目標：①臨床心理学的支援について説明できる。②代表的な臨床心理アセスメントについて説明できる。③代表的な心の健康問題について説明できる。		
回数	講 義 内 容		
1	臨床心理学の目的		
2	臨床心理アセスメント		
3	心理療法・カウンセリングの基礎的技法① 精神分析療法／来談者中心療法		
4	心理療法・カウンセリングの基礎的技法② 認知行動療法		
5	精神疾患と臨床心理学		
6	発達障害		
7	うつ病		
8	不安障害		
9	統合失調症		
10	認知症		
11	身体疾患と心の健康		
12	ストレスと健康		
13	緩和ケアにおける臨床心理学的支援		
14	リハビリテーションにおける臨床心理学的支援		
15	定期試験の講評とまとめ		
教科書及び参考書	指定しない		
教授方法	講 義		
教 材	スライドならびに配布資料		
成績評価	各回における小テストならびに定期試験		
備考			
定期試験は、国家試験に準じた形式で出題します。			

科目名	一般臨床医学	1 単位 30時間	2学年 後期
講師名	伊井邦雄		
科目の概要	身体に起こる種々の障害の把握とその対応の基礎的な事項について学習する。 病態生理と医学用語の解説、さらに救急救命、外科、脳外科、皮膚、泌尿生殖器、産婦人科、眼、耳鼻咽喉科の疾患に焦点をあて、教授する。		
回数	講 義 内 容		
1	救急医学（心肺蘇生法、ショック、呼吸管理）		
2	〃 （輸血、救急処置）		
3	病態生理・医学用語 （全身症状）		
4	〃 （局所症状）		
5	〃 （局所症状）		
6	〃 （基礎医学）		
7	〃 （基礎医学）		
8	外科総論		
9	脳外科		
10	皮膚疾患		
11	〃		
12	泌尿・生殖器疾患		
13	婦人科・産科疾患		
14	眼疾患		
15	耳鼻咽喉疾患		
16			
教科書及び参考書	「PT・OTのための一般臨床医学 第3版」 医歯薬出版		
教授方法	口述、板書		
教材	プリント		
成績評価	定期試験		
	備考		

科目名	内科学	1 単位（分担講義） 1 6 ／ 3 0 時間	2 学年 前期
講師名	木村 聡		
科目の概要	総合リハビリテーション医学を習得するためには、諸種疾患の概要に精通している必要がある。高齢化社会になりつつある今日においては、特に内科学全般の知識は必要不可欠のものである。 総論において症状の徴候のとらえ方から診断に到達するまでの過程を概説し、また、各論において代表的疾患の病態や治療法について、画像評価、臨床薬学についてもふれながら概説する。		
回数	講 義 内 容		
1	消化器疾患： 食道疾患、胃・十二指腸疾患		
2	消化器疾患： 腸・肝臓疾患		
3	消化器疾患： 肝道・膵臓疾患		
4	血液・造血器疾患： 赤血球・白血球系疾患		
5	血液・造血器疾患： リンパ系疾患、血漿蛋白の異常、出血性疾患		
6	神経・筋疾患疾患： 神経学的症状（所見とその意義）		
7	神経・筋疾患疾患： 神経学的検査、神経系の疾患 1		
8	神経・筋疾患疾患： 神経系の疾患 2		
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
教科書及び参考書	「メディカルスタッフのための内科学 第4版」 医学出版社		
教授方法			
教材			
成績評価	定期試験による		
	備考		

科目名	内科学	※ 分担講義	2学年 前期
講師名	伊井邦雄		
科目の概要	総合リハビリテーション医学を習得するためには、諸種疾患の概要に精通している必要がある。高齢化社会になりつつある今日においては、特に内科学全般の知識は必要不可欠のものである。 総論において症状の徴候のとらえ方から診断に到達するまでの過程を概説し、また、各論において代表的疾患の病態や治療法について、画像評価、臨床薬学についてもふれながら概説する。		
回数	講 義 内 容		
1	臨床医学総論		
2	症状とその臨床的意義		
3	腎臓・水・電解質 1		
4	腎臓・水・電解質 2		
5	免疫・アレルギー・膠原病 1		
6	免疫・アレルギー・膠原病 2		
7	感染症（性感染症）		
8	たばこの害		
9	生活習慣病・メタボリックシンドローム		
10	痛		
11	認知症		
12	脳卒中 1		
13	脳卒中 2		
14	環境要因に基づく疾患		
15	中毒、総括		
教科書及び参考書	「メディカルスタッフのための内科学 第4版」 医学出版社		
教授方法			
教材			
成績評価	定期試験		
	備考		
※ 前期内科学対応 8回：1単位（16時間／30時間） 後期内科学対応 7回：1単位（14時間／30時間）			

科目名	内科学	1 単位（分担講義） 20 / 30時間	2学年 後期
講師名	山田 博胤 若槻 哲三 添木 武		
科目の概要	総合リハビリテーション医学を習得するためには、諸種疾患の概要に精通している必要がある。高齢化社会になりつつある今日においては、特に内科学全般の知識は必要不可欠のものである。 総論において症状の徴候のとらえ方から診断に到達するまでの過程を概説し、また、各論において代表的疾患の病態や治療法について、画像評価、臨床薬学についてもふれながら概説する。		
回数	講 義 内 容		
1	循環器内科 : 1		
2	循環器内科 : 2		
3	循環器内科 : 3		
4	循環器内科 : 4		
5	感染症		
6	代謝・内分泌 : 1		
7	代謝・内分泌 : 2		
8	呼吸器 : 1		
9	呼吸器 : 2		
10	中毒		
11			
12			
13			
14			
15			
16			
教科書及び参考書	「メディカルスタッフのための内科学 第4版」 医学出版社		
教授方法			
教材			
成績評価	定期試験による		
	備考		

科目名	整形外科科学	1 単位 30時間	2学年 前期
講師名	加藤真介 佐藤紀		
科目の概要	総合リハビリテーション医学を習得するためには、諸種疾患の概要に精通している必要がある。特に整形外科科学全般の知識はリハビリテーション医学に必要不可欠のものである。 総論において症状の徴候のとらえ方から診断に到達するまでの過程を概説し、また、各論において代表的疾患の病態や治療法について、画像評価、臨床薬学についてもふれながら概説する。		
回数	講 義 内 容		
1	整形外科の基礎科学	加藤	
2	整形外科の診断総論	佐藤	
3	整形外科の基礎科学	加藤	
4	整形外科の診断総論	佐藤	
5	整形外科の基礎科学	加藤	
6	整形外科の診断総論	佐藤	
7	整形外科の治療総論	加藤	
8	整形外科疾患総論 感染・RA・OA	佐藤	
9	整形外科の治療総論	加藤	
10	整形外科疾患総論 感染・RA・OA	佐藤	
11	整形外科疾患総論 循環・先天異常	加藤	
12	整形外科疾患総論 感染・RA・OA	佐藤	
13	整形外科疾患総論 骨軟部腫瘍	加藤	
14	整形外科疾患総論 代謝性疾患	佐藤	
15	整形外科疾患総論 骨軟部腫瘍	加藤	
16	整形外科疾患総論 神経・筋疾患・ロコモ	佐藤	
教科書及び参考書	「標準整形外科科学 第14版」 医学書院		
教授方法	講義		
教材			
成績評価	定期試験		
	備考		

科目名	整形外科学	1単位(分担講義) 30 / 30 時間	2学年 前期
担当教員	加藤真介 佐藤紀		
科目の概要	整形外科領域の外傷や疾患などの病態を学び、診断方法や治療方法を理解する。総論において症状の徴候のとらえ方から診断に到達するまでの過程を概説し、また、各論において代表的疾患の病態や治療法について、画像評価、臨床薬学についてもふれながら概説する。		
一般目標	運動器の正常構造と機能を理解する。 主な運動器疾患の病態生理、原因、症候、診断と治療法を学ぶ。 問診、徒手検査、画像検査、生理学的検査の評価に基づく整形外科的疾患の診断方法の実際を身につける。 慢性および先天性運動器疾患の病態、診断、治療に関する知識を習得する。 四肢・脊椎外傷の評価法、治療方針の決定、治療の実際についての知識を習得する。		
行動目標	運動器(骨・関節・筋・神経など)の解剖および生理を理解する。 整形外科的疾患の診断・評価法、治療法の概念を理解する。 各種疾患(関節疾患、脊椎疾患、スポーツ障害、骨軟部腫瘍、代謝性疾患、先天性疾患、骨感染症等の診断と治療法)について専門知識に基づいた判断が出来る。 各種外傷(四肢の外傷、脊椎の外傷、手の外科、末梢神経損傷等)について専門知識に基づいた判断が出来る。		
回数	講義内容	講師名	
1	頸椎の機能解剖と診察検査法と各種疾患について	加藤 真介	
2	肩・肘関節の機能解剖と診察検査法と各種疾患について	佐藤 紀	
3	胸椎・腰椎の機能解剖と診察検査法と各種疾患について	加藤 真介	
4	手関節と手の機能解剖と診察検査法と各種疾患について	佐藤 紀	
5	外傷とは 捻挫と脱臼、骨折や災害医療について	加藤 真介	
6	股関節の機能解剖と診察検査法と各種疾患について	佐藤 紀	
7	軟部組織の損傷 皮膚・筋・腱・血管・靱帯等の損傷について	加藤 真介	
8	膝関節の機能解剖と診察検査法と各種疾患について	佐藤 紀	
9	骨折・脱臼 成人のと小児の骨折・脱臼について	加藤 真介	
10	足関節と足の機能解剖と診察検査法と各種疾患について	佐藤 紀	
11	脊椎・脊髄損傷の病態や原因～治療について	加藤 真介	
12	末梢神経損傷 病態～代表的な末梢神経損傷について	佐藤 紀	
13	スポーツ損傷と障がい者スポーツについて	加藤 真介	
14	運動器疾患のリハビリテーション 評価～社会保障制度について	佐藤 紀	
15			
16			
17			
18			
19			
20			
	定期試験		
教科書	「標準整形外科学 第14版」 医学書院		
参考書			
教授方法	講義		
教材	教科書		
成績評価	定期試験		
備考			

科目名	整形外科科学	1 単位 30時間	2学年 後期
講師名	加藤真介 佐藤紀		
科目の概要	総合リハビリテーション医学を習得するためには、諸種疾患の概要に精通している必要がある。特に整形外科科学全般の知識はリハビリテーション医学に必要不可欠のものである。 総論において症状の徴候のとらえ方から診断に到達するまでの過程を概説し、また、各論において代表的疾患の病態や治療法について、画像評価、臨床薬学についてもふれながら概説する。		
回数	講 義 内 容		
	上肢 26－28章 頸椎 29－30章 胸腰椎 31章 股関節 32章 膝関節 33章 足関節 34章 外傷総論 35章 外傷 36－37章 神経損傷 38－39章 スポーツ 40章		
教科書及び参考書	「標準整形外科科学 第14版」 医学書院		
教授方法			
教材			
成績評価	定期試験		
	備考		

科目名	整形外科学	1単位(分担講義) 30 / 30 時間	2学年 後期
担当教員	加藤真介 佐藤紀		
科目の概要	整形外科領域の外傷や疾患などの病態を学び、診断方法や治療方法を理解する。総論において症状の徴候のとらえ方から診断に到達するまでの過程を概説し、また、各論において代表的疾患の病態や治療法について、画像評価、臨床薬学についてもふれながら概説する。		
一般目標	運動器の正常構造と機能を理解する。 主な運動器疾患の病態生理、原因、症候、診断と治療法を学ぶ。 問診、徒手検査、画像検査、生理学的検査の評価に基づく整形外科的疾患の診断方法の実際を身につける。 慢性および先天性運動器疾患の病態、診断、治療に関する知識を習得する。 四肢・脊椎外傷の評価法、治療方針の決定、治療の実際についての知識を習得する。		
行動目標	運動器(骨・関節・筋・神経など)の解剖および生理を理解する。 整形外科的疾患の診断・評価法、治療法の内容を理解する。 各種疾患(関節疾患、脊椎疾患、スポーツ障害、骨軟部腫瘍、代謝性疾患、先天性疾患、骨感染症等の診断と治療法)について専門知識に基づいた判断が出来る。 各種外傷(四肢の外傷、脊椎の外傷、手の外科、末梢神経損傷等)について専門知識に基づいた判断が出来る。		
回数	講義内容	講師名	
1	頸椎の機能解剖と診察検査法と各種疾患について	加藤 真介	
2	肩・肘関節の機能解剖と診察検査法と各種疾患について	佐藤 紀	
3	胸椎・腰椎の機能解剖と診察検査法と各種疾患について	加藤 真介	
4	手関節と手の機能解剖と診察検査法と各種疾患について	佐藤 紀	
5	外傷とは 捻挫と脱臼、骨折や災害医療について	加藤 真介	
6	股関節の機能解剖と診察検査法と各種疾患について	佐藤 紀	
7	軟部組織の損傷 皮膚・筋・腱・血管・靱帯等の損傷について	加藤 真介	
8	膝関節の機能解剖と診察検査法と各種疾患について	佐藤 紀	
9	骨折・脱臼 成人のと小児の骨折・脱臼について	加藤 真介	
10	足関節と足の機能解剖と診察検査法と各種疾患について	佐藤 紀	
11	脊椎・脊髄損傷の病態や原因～治療について	加藤 真介	
12	末梢神経損傷 病態～代表的な末梢神経損傷について	佐藤 紀	
13	スポーツ損傷と障がい者スポーツについて	加藤 真介	
14	運動器疾患のリハビリテーション 評価～社会保障制度について	佐藤 紀	
15			
16			
17			
18			
19			
20			
	定期試験		
教科書	「標準整形外科学 第14版」 医学書院		
参考書			
教授方法	講義		
教材	教科書		
成績評価	定期試験		
備考			

科目名	神経内科学	1 単位 30時間	2学年 前期
講師名	和泉唯信		
科目の概要	リハビリテーションに必要な神経系の症状・徴候のとりえ方、診断に到達するまでの過程、代表的疾患の病態や治療法について、臨床面から画像評価、臨床薬学についてもふれながら解説すると同時に、患者に接する基本的な態度についても教育する。		
回数	講 義 内 容		
1	神経疾患の特徴とみかた		
2	〃		
3	障害とリハビリテーションプログラム		
4	中枢神経系の解剖と機能		
5	神経学的診断と評価		
6	神経学的検査法		
7	意識障害, 脳死, 植物状態		
8	めまい, 失神		
9	運動麻痺, 錐体路徴候, 筋萎縮		
10	錐体路徴候, 不随意運動		
11	運動失調		
12	感覚障害		
13	高次脳機能障害		
14	構音障害, 嚥下障害		
15	歩行障害		
16	頭痛, 疼痛		
17			
18			
教科書及び参考書	「標準理学療法学・作業療法学 神経内科学 改訂第5版」 医学書院		
教授方法			
教材			
成績評価	定期試験		
	備考		

科目名	神経内科学	1 単位 30時間	2学年 後期
講師名	和泉唯信		
科目の概要	リハビリテーションに必要な神経系の症状・徴候のとりえ方、診断に到達するまでの過程、代表的疾患の病態や治療法について、臨床面から画像評価、臨床薬学についてもふれながら解説すると同時に、患者に接する基本的な態度についても教育する。		
回数	講 義 内 容		
1	脳血管障害		
2	〃		
3	認知症		
4	〃		
5	パーキンソン病		
6	パーキンソン症候群		
7	脊髄小脳変性症・多系萎縮症		
8	運動ニューロン疾患		
9	免疫性神経疾患（重症筋無力症）		
10	免疫性神経疾患（多発性硬化症，視神経脊髄炎）		
11	神経感染症		
12	てんかん		
13	末梢神経障害		
14	筋疾患		
15	中毒性疾患, 栄養欠乏による神経疾患		
16			
17			
18			
教科書及び参考書	「標準理学療法学・作業療法学 神経内科学 改訂第5版」 医学書院		
教授方法			
教材			
成績評価	定期試験		
	備考		

科目名	精神医学	1 単位 30時間	2学年 前期
講師名	大蔵雅夫		
科目の概要	精神医学は医学分野の中でも心の障害に関する学問である。身体医学との違いや、精神医学の発展について学んだ後に、様々な精神障害で出現する精神症状について詳細に学習する。さらに精神障害の診断に必要な検査や精神障害の治療方法について学んだ後、精神障害を器質性、機能性、反応性精神障害に分類した上で、代表的な精神障害の症状、診断、予後、臨床薬学を含む治療について学習する。		
回数	講 義 内 容		
1	精神医学の理論と特徴		
2	精神医学と精神科医療の歴史		
3	精神症状（1）意識と記憶の障害		
4	精神症状（2）知覚と思考の障害		
5	精神症状（3）感情と意欲・行動の障害		
6	精神症状（4）脳の機能と高次脳機能障害		
7	精神科診断学（1）精神医学における診察法		
8	精神科診断学（2）画像検査と脳波検査		
9	精神科診断学（3）心理検査		
10	精神科治療学（1）薬物療法		
11	精神科治療学（2）身体療法		
12	精神科治療学（3）精神療法と心理社会的治療		
13	器質性精神障害の症状と治療		
14	機能性精神障害の症状と治療		
15	反応性精神障害の症状と治療		
	定期試験		
教科書及び参考書	コメディカルのための基礎分野テキスト 精神医学（中外医学社）		
教授方法	パワーポイントによる講義		
教材	その都度プリントを配布する		
成績評価	定期試験、出席状況、レポート等を総合評価する		
	備考		

科目名	精神医学	1 単位 30時間	2学年 後期
講師名	大蔵雅夫 森内 幹		
科目の概要	前期に総論的に学んだ精神症状、検査、治療方法などを、個々の精神障害からの視点で再学習する。まず精神障害の発症メカニズムや分類方法について学んだ後、個々の精神障害（器質性精神障害、統合失調症、気分障害、神経症性障害、てんかんなど）の症状、治療、予後について詳細に学習する。		
回数	講 義 内 容		
1	精神障害の国際分類と診断基準		
2	精神障害の発症に関する仮説		
3	器質性精神障害とその治療		
4	症状性精神障害とその治療		
5	器質性精神障害とその治療		
6	精神作用物質による精神障害とその治療（1）アルコール		
7	精神作用物質による精神障害とその治療（2）薬物		
8	統合失調症と妄想性障害とその治療		
9	気分障害とその治療		
10	神経症性障害とその治療		
11	生理的障害および身体要因に関連した行動症候群とその治療		
12	成人の人格および行動の障害とその治療		
13	てんかんとその治療		
14	児童期の精神障害とその治療		
15	老年期の精神障害とその治療		
	定期試験		
教科書及び参考書	コメディカルのための基礎分野テキスト 精神医学（中外医学社）		
教授方法	パワーポイントによる講義		
教材	その都度プリントを配布する		
成績評価	定期試験，出席状況，レポート等を総合評価する		
	備考		

科目名	小児科学	1 単位 30時間	2学年 前期
講師名	須賀 健一		
科目の概要	小児は成人と違い、その個体があらゆる面で成長発育の途上にある。小児の健康を守るためには、新生児、乳児期から思春期を経て成人に至るまでの幅広い対象に対する理解が必要である。小児に対する医療においても、成長の各段階にある患者の生理的、心理的特徴を十分理解した上で、先天的な疾患や、成長の過程のトラブルとして起こる、身体的、精神的疾患について幅広い知識をもつことが必要である。そこで、まず小児の成長、発達について概説し、つづいて小児期の主要な疾患、小児保健におけるトピックスなどについて解説する。		
回数	講 義 内 容		
1	発達と発育		
2	生理		
3	栄養		
4	小児保健・事故・救急処置		
5	先天異常		
6	新生児疾患		
7	栄養・代謝性疾患		
8	内分泌疾患		
9	消化器疾患		
10	感染症・呼吸器疾患		
11	中枢神経・筋疾患		
12	血液疾患・固形腫瘍		
13	循環器疾患		
14	アレルギー・自己免疫疾患		
15	腎・泌尿器疾患		
教科書及び参考書	「最新育児小児病学 改訂第7版」 南江堂		
教授方法	講義		
教材	定期試験による		
成績評価			
	備考		
講義開始時間を厳守すること			

科目名	老年学	1 単位 30時間	2学年 前期
講師名	伊井邦雄		
科目の概要	老年者ではさまざまな疾患が多発し、死亡率を高めるとともに、認知症、ADL（日常生活動作）低下など、要介護老年者を増加させる。老年医学には単なる診断、治療だけでなく、ケア、リハビリテーション、終末期医療にいたるまでの多領域を包括するところに特徴がある。本講義では老年者特有の疾患の病態や特徴、さらに生活機能障害の評価について臨床薬学、栄養学を交えて概説する。		
回数	講 義 内 容		
1	高齢者の定義と人口動態		
2	加齢に伴う生理機能の変化		
3	〃 運動機能の変化		
4	〃 精神心理面の変化		
5	高齢者の生活機能の評価、ケア、リハビリテーション		
6	〃		
7	老年症候群		
8	〃		
9	高齢者特有の疾患（感染症）		
10	〃 （循環器、呼吸器）		
11	〃		
12	〃 （消化器、内分泌、血液、免疫）		
13	〃 （精神神経、骨・運動器）		
14	〃 （腎・泌尿器、皮膚、口腔）		
15	〃 （耳鼻咽喉、眼）		
16			
17			
18			
教科書及び参考書	「老年学 標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 第5版 」 医学書院		
教授方法	口述、板書		
教材	プリント		
成績評価	定期試験		
	備考		

科目名	リハビリテーション医学	1単位 30時間	2学年 前期
講師名	江西 哲也		
科目の概要	理学療法士、作業療法士になるために必要なリハビリテーション医学・医療の基本的な知識並びに考え方を学び、障害を診る心を育て、人々の生活機能の回復・向上に対応する医療・福祉を学ぶ。		
回数	講 義 内 容		
1	リハビリテーション医学・医療の成り立ち、理念、障害学		
2	リハビリテーション医療の急性期・回復期・維持期 保健・医療・福祉の連携		
3	リハビリテーション診療の手順、画像診断、電気生理、ADL		
4	治療手技のあらまし、リハ工学		
5	廃用による障害、加齢による障害、発達障害		
6	中枢神経系による運動障害、歩行障害		
7	循環機能障害、呼吸障害		
8	摂食・嚥下障害、排泄障害、褥瘡		
9	高次脳機能障害（失行・失認、言語障害、認知症）のリハ		
10	脳血管障害、頭部外傷のリハ		
11	脊髄損傷のリハ、切断と義手・義足		
12	運動器（R A）疾患のリハ、疼痛のリハ		
13	外傷のリハ、脳性麻痺・筋ジストロフィーのリハ		
14	内部障害・精神障害・悪性腫瘍のリハ		
15	リハビリテーション心理と障害受容 臨床現場での心構え		
教科書及び参考書	最新リハビリテーション医学 第3版 医歯薬出版 2005		
教授方法	パワーポイント使用		
教材	プリント配付		
成績評価	定期試験		
	備考		

作業療法専門分野 1 年

科目名	作業療法概論	単位数	1単位 30時間	開講年次	1学年 前期
担当教員	森口智恵美(作業療法士として実務経験5年) 濱 敬介(作業療法士として実務経験6年) 徳島車いすバスケットボールクラブ(外部講師) 圓井美貴子(外部講師)				
科目概要	作業療法を「作業の意味」「対象と領域」「歴史」の切り口で学ぶ。 専門職としての作業療法士に必要な知識や技術を学ぶ。				
一般目標	作業療法を理解し概念を形成する				
行動目標	作業療法の定義について説明できる 作業療法の対象と領域について説明できる リハビリテーションにおける作業療法の役割について説明できる				
回数	講 義 内 容				
1	「作業」とは				(森口)
2	作業療法の原理				(森口)
3	リハビリテーションの歴史と作業療法				(森口)
4	作業療法の領域				(森口)
5	作業療法の理論				(森口)
6	世界の作業療法				(森口)
7	作業療法の教育体系				(森口)
8	医療倫理と作業療法士に求められる資質・適正				(森口)
9	他職種連携によるチームアプローチ①				(森口)
10	EBMと作業療法				(森口)
11	障害受容を学ぶ(映画鑑賞)				(森口)
12	車椅子バスケットボールについて				(濱)
13	車椅子バスケットボール体験学習				(車いすバスケ)
14	車椅子バスケットボール体験学習				(車いすバスケ)
15	重症心身障害児の療育について				(圓井)
教科書 及び 参考書	標準作業療法学 専門分野 作業療法学概論 第3版 医学書院				
教授方法	講義・体験学習				
教材	パワーポイント、授業プリント、DVD				
成績評価	定期試験, 提出物				
配点割合	森口75%、濱5% 外部10%				
備考					
当該科目は実務経験のある教員等による授業科目である。					

科目名	作業療法概論	単位数	1単位 30時間	開講年次	1学年 後期
担当教員	森口智恵美(作業療法士として実務経験5年) 濱 敬介(作業療法士として実務経験6年)				
科目概要	作業療法の過程及び、各領域の作業療法の実践を学ぶ 作業療法業務に必要な管理・運営を学ぶ				
一般目標	作業療法を理解し概念を形成する				
行動目標	作業療法の過程を理解することができる 各領域の作業療法の目的や役割を理解することができる 作業療法部門における管理運営を理解することができる				
回数	講 義 内 容				
1	作業療法の過程①				(森口)
2	作業療法の過程②				(森口)
3	作業療法の過程③				(森口)
4	身体機能分野における作業療法過程(演)				(濱)
5	身体機能分野における作業療法過程(急性期) グループワーク				(濱)
6	身体機能分野における作業療法過程(回復期) グループワーク				(濱)
7	身体障害分野における作業療法過程(生活期) グループワーク				(濱)
8	精神機能分野における作業療法過程(急性期) 事例検討				(森口)
9	精神機能分野における作業療法過程(急性期) 事例検討				(森口)
10	精神機能分野における作業療法過程(回復期) 事例検討				(森口)
11	精神機能分野における作業療法過程(回復期) 事例検討				(森口)
12	医療福祉制度				(森口)
13	作業療法部門の管理・運営				(森口)
14	作業療法部門の記録・報告				(森口)
15	作業療法教育の発展に向けて				(森口)
教科書 及び 参考書	標準作業療法学 専門分野 作業療法学概論 第3版 医学書院				
教授方法	講義・体験学習				
教材	パワーポイント、授業プリント、DVD				
成績評価	定期試験, 提出物				
配点割合	森口75%、濱25%				
備考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

科目名	作業分析学	単位数	1単位 30時間	開講年次	1学年 前期
担当教員	花棚雅子(作業療法士として実務経験8年)				
科目概要	作業について一般的分析を用いて分析する 作業が人に与える影響を学習する				
一般目標	作業の一般的分析を実践し、作業の特性を学ぶ				
行動目標	一般的分析を実践する方法を習得する 作業が人に与える影響、作業のもちい方を説明できる				
回数	講義内容				
1	作業・作業活動とは①				
2	作業・作業活動とは②				
3	ひとと作業・作業活動①				
4	ひとと作業・作業活動②				
5	ひとの一生と作業				
6	手と作業				
7	学習と作業				
8	作業と結果の特性①				
9	作業と結果の特性②				
10	作業分析とは				
11	身体障害領域の作業分析①				
12	身体障害領域の作業分析②				
13	精神障害領域の作業分析①				
14	精神障害領域の作業分析②				
15	まとめ				
教科書 及び 参考書	ひとと作業・作業活動 新版 三輪書店				
教授方法	講義・演習				
教材	プリント資料等				
成績評価	定期試験・レポート課題				
備考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

科目名	基礎作業学実習	単位数	2単位 90時間	開講年次	1学年 前期
担当教員	花棚雅子(作業療法士として実務経験8年) 坂東仁志(作業療法士として実務経験5年) 小林温子(作業療法士として実務経験5年) 田村佳代(外部講師)				
科目概要	作業療法の様々な活動を治療手段として捉えるために、活動を経験する。 また、経験した活動を治療的に応用する基礎として一般的な作業分析を経験する				
一般目標	活動を経験し、治療手段としての視点を養い、一般的作業分析を経験する				
行動目標	活動の基本的手技を経験し、別の機会で再現できる 経験した活動について一般的作業分析を行うことができる 経験した活動についてアダプテーション、段階付けを行うことができる 活動時のリスク管理、物品管理、運営について経験し実行及び言語化できる				
回数	講 義 内 容				
1	オリエンテーション				(花棚)
2～6	刺し子				(花棚)
7～14	木 工				(坂東)
15～18	マクラメ				(小林)
19～25	革細工				(花棚)
26～31	陶 芸				(田村)
32～35	切り絵				(坂東)
36～40	アンデルセン手芸				(小林)
41～45	調 理				(花棚)
教科書 及び 参考書	作業活動実習マニュアル 医歯薬出版				
教授方法	講義・演習・グループワーク				
教材	プリント				
成績評価	筆記試験・課題レポート				
配点割合	花棚 40%、坂東 30%、小林 20%、外部 10%				
備考					
当該科目は実務経験のある教員等による授業科目である。					

科目名	身体機能評価学Ⅰ	単位数	1単位 30時間	開講年次	1学年 前期
担当教員	坂東仁志(作業療法士として実務経験5年)				
科目概要	身体障害に対する作業療法の運動器系機能評価の目的を理解し、適合する検査方法と結果の解釈の仕方について学ぶ。				
一般目標	身体障害分野の作業療法過程における運動器系機能評価の目的を理解する。 作業療法の評価に関する知識・技術・技能を習得する。				
行動目標	運動器系機能評価の目的を説明できる。 運動器系機能評価の検査方法を理解できる。 学生間で擬似的に役割分担をして検査の実施ができる。				
回数	講 義 内 容				
1	オリエンテーション、評価学の基礎				
2	形態計測の基礎知識(講義)				
3	形態計測の測定方法 上肢(実技)				
4	形態計測の測定方法 下肢(実技)				
5	関節可動域測定のための基礎知識				
6	関節可動域の測定方法 肩甲帯の関節(講義・実技)				
7	関節可動域の測定方法 肩の関節(講義・実技)				
8	関節可動域の測定方法 肘・前腕の関節(講義・実技)				
9	関節可動域の測定方法 手・手指の関節(講義・実技)				
10	関節可動域の測定方法 股関節(講義・実技)				
11	関節可動域の測定方法 膝・足部の関節(講義・実技)				
12	関節可動域の測定方法 頸部の関節(講義・実技)				
13	関節可動域の測定方法 体幹の関節(講義・実技)				
14	実技テスト(ROM・形態計測)				
15	実技テスト(ROM・形態計測)				
教科書 及び 参考書	標準作業療法学 作業療法評価学(医学書院)				
教授方法	講義・実技演習				
教材	骨・筋標本等				
成績評価	試験・実技テスト				
備考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

科目名	身体機能評価学Ⅰ	単位数	1単位 30時間	開講年次	1学年 後期
担当教員	坂東仁志(作業療法士として実務経験5年)				
科目概要	身体障害に対する作業療法の運動器系機能評価の目的を理解し、適合する検査方法と結果の解釈のしかたとについて学ぶ。				
一般目標	身体障害分野の作業療法過程における運動器系機能評価の目的を理解する。 作業療法の評価に関する知識・技術・技能を習得する。				
行動目標	運動器系機能評価の目的を説明できる。 運動器系機能評価の検査方法を理解できる。 学生間で擬似的に役割分担をして検査の実施ができる。				
回数	講義内容				
1	筋力および徒手筋力検査とは(講義)				
2	筋力検査のための基礎知識と測定方法(講義・実技)				
3	徒手筋力検査法の基礎知識(講義)				
4	徒手筋力検査法の測定方法 肩甲帯・肩(講義・実技)				
5	徒手筋力検査法の測定方法 肩(講義・実技)				
6	徒手筋力検査法の測定方法 肩・肘(講義・実技)				
7	徒手筋力検査法の測定方法 前腕・手(講義・実技)				
8	徒手筋力検査法の測定方法 手指(講義・実技)				
9	徒手筋力検査法の測定方法 股(講義・実技)				
10	徒手筋力検査法の測定方法 股・膝(講義・実技)				
11	徒手筋力検査法の測定方法 足部・頸部(講義・実技)				
12	徒手筋力検査法の測定方法 頸部・体幹(講義・実技)				
13	徒手筋力検査法の測定方法 体幹(講義・実技)				
14	実技テスト				
15	実技テスト				
教科書 及び 参考書	標準作業療法学 作業療法評価学(医学書院) 新・徒手筋力検査法(協同医書出版社)				
教授方法	講義・演習				
教材	骨・筋標本等				
成績評価	筆記試験・実技テスト				
備考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

科目名	身体機能評価学Ⅱ	単位数	1単位 30時間	開講年次	1学年 後期
担当教員	花棚雅子(作業療法士として実務経験8年)				
科目概要	身体障害に対する作業療法の神経系機能評価の目的を理解し、適合する検査方法と結果の解釈の仕方について学ぶ。				
一般目標	身体障害分野の作業療法過程における神経系機能評価の目的を理解する。 作業療法の評価に関する知識・技術・技能を習得する。				
行動目標	神経系機能評価の目的を説明できる。 神経系機能評価の検査方法を理解できる。 学生間で疑似的に役割分担をして検査の実施ができる。				
回数	講 義 内 容				
1	バイタルサイン(呼吸・血圧・脈拍・意識レベル)				
2	バイタルサイン(呼吸・血圧・脈拍・意識レベル)				
3	反射検査(腱反射・表在反射・病的反射)				
4	反射検査(腱反射・表在反射・病的反射)				
5	バイタルサインと反射検査の復習				
6	感覚経路とその種類				
7	感覚検査(表在感覚)				
8	感覚検査(深部感覚)				
9	さまざまな感覚検査の復習				
10	実技試験①(バイタルサイン・反射検査・感覚検査)				
11	実技試験②(バイタルサイン・反射検査・感覚検査)				
12	筋緊張検査				
13	脳神経検査				
14	脳神経検査				
15	まとめ				
教科書 及び 参考書	標準作業療法学 作業療法評価学(医学書院)				
教授方法	講義・実技演習				
教材	プリント資料				
成績評価	筆記試験・実技試験				
備考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

科目名	精神機能評価学Ⅰ	単位数	1単位 30時間	開講年次	1学年 後期
担当教員	森口智恵美(作業療法士として実務経験5年)				
科目概要	精神機能の障害の捉えかたを理解し評価技術を学ぶ 集団内で自己を分析することで自己開示の機会を得る				
一般目標	精神障害を生じる代表的疾患に対する基本的な作業療法評価について学ぶ				
行動目標	精神機能を評価することの意味を説明できる 精神機能の障害のモデルを適切な用語を用いて説明できる 交流分析を通して自分についての理解を深め、言語化することができる				
回数	講 義 内 容				
1	科目オリエンテーション 精神機能とは				
2	人を評価するとは①（グループワーク）				
3	人を評価するとは②（グループワーク）				
4	当事者が語る統合失調症（ビデオ鑑賞）				
5	精神機能の障害と特性①				
6	精神機能の障害と特性②				
7	交流分析プログラム1 エゴグラム（グループワーク）				
8	交流分析プログラム2 基本的な構えと脚本分析				
9	交流分析プログラム3 コミュニケーションパターン				
10	交流分析プログラム4 防衛機制とストローク				
11	交流分析プログラム5 自己受容の度合い（グループワーク）				
12	ケースから学ぶ作業療法評価① 事例検討				
13	ケースから学ぶ作業療法評価② 事例検討				
14	ケースから学ぶ作業療法評価③ 事例検討				
15	まとめ				
教科書 及び 参考書	精神障害と作業療法 新版 三輪書店				
教授方法	講義・演習・グループワーク				
教材	パワーポイント、授業プリント、DVD				
成績評価	定期試験, レポート				
備 考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。 交流分析プログラムはグループディスカッションを通して実施します。後日レポートを提出していただきますので、体調管理に気をつけ欠席のないように注意してください。					

科目名	生活環境論	単位数	1単位 30時間	開講年次	1学年 後期
担当教員	小林温子(作業療法士として実務経験5年) 菅村拓也(作業療法士として実務経験5年) 中村正則(一級建築士として実務経験41年)				
科目概要	本講義は、第1学年後期履修の1単位(30時間)科目であり、学内講義と特別講義、車椅子体験学習などのレポート課題より構成されます。 車椅子体験実習を通じて、駅周辺のアクセシビリティとバリアについて考える機会を持ち、障害者の生活環境について理解を深める。特別講義では、一級建築士によるやさしい街づくりの取り組みや住宅建築の基礎知識について学びます。				
一般目標	建築構造の基礎知識と障害特性を配慮した住宅環境と、ユニバーサルデザインに基づいた誰もが住みやすい街づくりについて理解を深める。				
行動目標	車椅子体験を通して、誰もが住みやすい街づくりについて説明できる。 ユニバーサルデザインとバリアフリーの概念について説明できる。 基本的な住宅建築の構造について説明できる。 障害特性に応じた住宅環境について説明できる。				
回数	講 義 内 容				
1	生活環境・住宅の意義とは				(小林)
2	車いすの名称と構造～自走と介助のポイント				(小林)
3	ユニバーサルデザインの街づくりについて				(中村)
4	ユニバーサルデザインの街づくりについて				(中村)
5	車椅子体験計画				(小林)
6	車椅子体験計画				(小林)
7	徳島市中心部の車椅子体験～校外学習～				(小林・菅村・中村)
8	徳島市中心部の車椅子体験～校外学習～				(小林・菅村・中村)
9	徳島市中心部の車椅子体験～校外学習～				(小林・菅村・中村)
10	徳島市中心部の車椅子体験のまとめ				(菅村)
11	徳島市中心部の車椅子体験学習のグループ発表&討論会				(菅村)
12	徳島市中心部の車椅子体験学習のグループ発表&討論会				(菅村)
13	住宅建築の基礎知識				(中村)
14	住宅建築の基礎知識				(中村)
15	OTの役割～情報収集・評価とフォローアップ～				(小林)
教科書 及び 参考書	なし				
教授方法	講義・体験学習・校外学習(車椅子体験)				
教材	プリント・スライド				
成績評価	後期試験・グループ課題・レポート課題・感想課題				
配点割合	小林 50%、菅村 0% 外部 50%				
備考					
当該科目は実務経験のある教員等による授業科目である。					

科目名	見学実習	単位数	1単位40時間	開講年次	1学年 後期
担当教員	森口智恵美(作業療法士として実務経験5年) 坂東仁志(作業療法士として実務経験5年) 小林温子(作業療法士として実務経験5年) 花棚雅子(作業療法士として実務経験8年) 濱 敬介(作業療法士として実務経験6年) 菅村拓也(作業療法士として実務経験5年)				
科目概要	1期の臨床実習期間は3日間を原則とし、2期・2施設の臨床実習を行う。				
一般目標	臨床実習指導者の指導・監督のもとで、典型的な障害特性を呈する対象者に対する作業療法を見学し、作業療法の役割を学ぶとともに、倫理観や基本的態度を身につける。				
行動目標	1. 基本的態度 1) 常識的態度 : 職業人としての常識的態度を身につける。 2) 責任ある行動 : 専門職としての責任ある行動を身につける。 3) 自己管理 : 自己管理ができる。 4) 意欲 : 意欲的に取り組む姿勢(探求心・創造性)を身につける。 2. 管理運営 5) 施設理解 : 施設の特徴について理解できる。				
実 施 内 容					
見学実習 第1期		実習前オリエンテーション			
		施設別オリエンテーション			
		見学実習 第1期			
		実習後セミナー			
見学実習 第2期		実習前オリエンテーション			
		施設別オリエンテーション			
		見学実習 第2期			
		実習後セミナー			
教授方法	講義・臨床実習・グループディスカッション・発表				
成績評価	臨床実習指導者の意見を徴したうえで、学科長、及び専任教員が協議して行う。				
備考					

作業療法専門分野 2年

科目名	疾患別評価適合論	単位数	1単位 30時間	開講年次	2学年 前期
担当教員	坂東仁志(作業療法士として実務経験5年) 花棚雅子(作業療法士として実務経験8年)				
科目概要	様々な要因によって生じる症状や障害特性を理解し、適切な評価項目の選択、利点と課題の抽出、目標の設定などのプロセスについての考え方を学ぶ。演習を通して、評価項目の選択やICFに基づいた課題や利点の抽出の過程について具体的に学ぶ。				
一般目標	疾患別作業療法課程における評価の目的を理解し、適切な評価項目の選択・適合をすることができる				
行動目標	代表的な疾患に対する評価の目的を説明できる。 障害像より適切な検査・測定方法を選択できる。 演習課題から評価計画を立案し、問題点や利点が抽出できる。 評価を実施する際の留意点やリスク管理について説明できる。 ケースレポートとしてまとめることができる。				
回数	講 義 内 容				
1	身障分野における疾患別評価項目について①				(坂東)
2	身障分野における疾患別評価項目について②				(坂東)
3	身障分野における疾患別評価項目について③				(坂東)
4	身障分野における疾患別評価項目について④				(坂東)
5	評価項目の選択とその実践について①				(坂東)
6	評価項目の選択とその実践について②				(坂東)
7	評価項目の選択とその実践について③				(坂東)
8	骨折 総論				(花棚)
9	上肢骨折の評価について①				(花棚)
10	上肢骨折の評価について②				(花棚)
11	大腿骨頸部骨折の評価について①				(花棚)
12	大腿骨頸部骨折の評価について②				(花棚)
13	末梢神経損傷の評価について①				(花棚)
14	末梢神経損傷の評価について②				(花棚)
15	まとめ				
教科書 及び 参考書	標準作業療法学 作業療法評価学 第3版(医学書院) 標準作業療法学 身体機能作業療法学 第3版(医学書院)				
教授方法	講義・演習・グループディスカッション				
教材	プリント資料				
成績評価	筆記試験				
配点割合	坂東 50%、花棚 50%				
備考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

科目名	精神機能評価学Ⅱ	単位数	1単位 30時間	開講年次	2学年 前期
担当教員	森口智恵美(作業療法士として実務経験5年)				
科目概要	精神科作業療法における評価を学ぶ				
一般目標	精神障害を生じる代表的疾患に対する基本的な作業療法評価について学ぶ				
行動目標	精神科作業療法評価プロセスを説明できる 精神機能評価の目的と方法を説明できる 精神機能評価を記録することができる ケース検討にて評価計画及び課題を抽出することができる				
回数	講 義 内 容				
1	精神科作業療法の手順①				
2	精神科作業療法の手順②				
3	精神障害に対する評価の具体的な内容と方法①				
4	精神障害に対する評価の具体的な内容と方法②				
5	面接の方法 インテーク面接				
6	面接の方法 作業面接				
7	生活活動の評価① 入院生活チェックリスト LASMI				
8	生活活動の評価② COPM (グループワーク)				
9	生活活動の評価③ COPM (グループワーク)				
10	記録の書き方①				
11	記録の書き方②				
12	統合失調症 事例検討				
13	統合失調症 事例検討				
14	統合失調症 事例検討				
15	統合失調症 事例検討				
教科書 及び 参考書	精神障害と作業療法 新版 三輪書店				
教授方法	講義・演習・グループワーク				
教材	パワーポイント、授業プリント、DVD				
成績評価	定期試験・レポート課題				
備考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

科目名	生活機能評価学	単位数	1単位 30時間	開講年次	2学年 前期
担当教員	小林温子(作業療法士として実務経験5年)				
科目概要	作業療法における「生活」の意義や視点、生活動作の構成要素について学習する作業療法対象者の生活を評価するための評価技術を習得する				
一般目標	日常生活活動の概念を理解し、作業療法における評価の観点を習得する。				
行動目標	作業療法における生活の概念と構造について説明できる。 活動を構成する身体、心理、認知、環境等の要素について分析し説明できる。 評価対象者の動作一連を文章で表現することができる。 必要に応じた評価様式を用いて評価を実施することができる。				
回数	講 義 内 容				
1	日常生活活動の概念と分類、生活の分析とは				
2	姿勢と基本動作の種類				
3	小テスト、姿勢と基本動作の特徴				
4	セルフケアの構成要素分析				
5	セルフケアの構成要素分析(演習①)				
6	セルフケアの構成要素分析(演習②)				
7	ADL評価の実施方法について				
8	評価技法:Barthel Index				
9	評価技法:FIM				
10	評価技法:FIM				
11	Barthel IndexとFIMの演習				
12	FIMの演習				
13	セルフケア動作分析のポイントについて				
14	事例検討				
15	まとめ				
教科書 及び 参考書	「PT・OTビジュアルテキスト ADL」 羊土社 「PT・OTビジュアルテキスト 姿勢動作・歩行分析」 羊土社				
教授方法	講義、演習、グループディスカッション				
教材	プリント資料、視覚教材等				
成績評価	前期試験、小テスト、出席点				
備考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。 本科目で学習する生活機能評価は、障害別生活活動支援論(前期)講義において、実技や演習を経験して学習を深めていく。					

科目名	身体機能治療学Ⅰ	単位数	1単位 30時間	開講年次	2学年 前期
担当教員	濱 敬介(作業療法士として実務経験6年)				
科目概要	本講義は、前期後期の通年科目で、60時間の履修を必要とする。 講義や演習、実習により構成される。 脳血管障害を中心に評価法(画像評価を含む)・治療法を中心に学ぶ。				
一般目標	疾患ごとに理解を深め、作業療法に必要な評価項目の選択、リスク管理、治療目標、治療計画を立案することができる。				
行動目標	身体機能作業療法の概要について説明することができる。 対象者に応じた評価・治療プロセスの概要を説明することができる。 病期・実施場所に応じた治療・指導・援助の概要を説明することができる。				
回数	講 義 内 容				
1	脳血管障害の概要:種類と特性				
2	脳血管障害の画像所見(CT・MRIなど)の見かた				
3	脳血管障害の病態と回復過程(急性期)				
4	脳血管障害急性期のリスク管理および評価				
5	脳血管障害急性期の治療				
6	脳血管障害の病態と回復過程(回復期)				
7	脳血管障害回復期の評価				
8	脳血管障害回復期の治療				
9	脳血管障害の病態と回復過程(生活期)				
10	脳血管障害生活期の評価				
11	脳血管障害生活期の治療				
12	ケーススタディ : 情報収集、評価項目の立案				
13	ケーススタディ : 問題点の抽出と整理				
14	ケーススタディ : 治療プログラムの立案				
15	脳血管障害に対する最新の治療、EBM				
教科書 及び 参考書	標準作業療法学 作業療法評価学 第3版(医学書院) 標準作業療法学 身体機能作業療法学 第3版(医学書院) 病気がみえるvol.7 脳・神経 第2版 (メディックメディア) リハ実践テクニック 脳卒中 第3版(メヂカルビュー) PT・OT 基礎から学ぶ画像の読み方 第3版 医歯薬出版株式会社				
教授方法	講義・演習・実習				
教材	プリント資料等				
成績評価	期末試験を100%とし、そのうち60%以上で合格とする。				
備考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

科目名	身体機能治療学Ⅰ	単位数	1単位 30時間	開講年次	2学年 後期
担当教員	坂東仁志(作業療法士として実務経験5年)				
科目概要	本講義は、前期後期の通年科目で、60時間の履修を必要とする。 講義や演習により構成される。				
一般目標	疾患ごとに理解を深め、作業療法に必要な評価項目の選択、リスク管理、治療目標、治療計画を立案することができる。				
行動目標	各疾患について概要を説明することができる。 対象者に応じた評価・治療プロセスの概要を説明することができる。 病期・実施場所に応じた治療・指導・援助の概要を説明することができる。				
回数	講 義 内 容				
1	Parkinson病に対する症状理解と作業療法評価				
2	Parkinson病に対する作業療法評価				
3	Parkinson病に対する作業療法について①				
4	Parkinson病に対する作業療法について②				
5	脊髄小脳変性症に対する症状理解と作業療法評価				
6	脊髄小脳変性症に対する作業療法評価				
7	脊髄小脳変性症に対する作業療法について①				
8	脊髄小脳変性症に対する作業療法について②				
9	筋萎縮性側索硬化症に対する症状理解と作業療法評価				
10	筋萎縮性側索硬化症に対する作業療法評価				
11	筋萎縮性側索硬化症に対する作業療法について①				
12	筋萎縮性側索硬化症に対する作業療法について②				
13	神経・筋疾患(多発性硬化症)に対する作業療法				
14	神経・筋疾患(ギランバレー症候群)に対する作業療法				
15	神経・筋疾患(重症筋無力症)に対する作業療法				
教科書 及び 参考書	標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第3版(医学書院) 標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第3版(医学書院) 病気がみえるvol.7 脳・神経 第2版(メディックケア)				
教授方法	講義・演習				
教材	プリント				
成績評価	期末試験				
備考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

科目名	身体機能治療学Ⅱ	単位数	2単位 60時間	開講年次	2学年 後期
担当教員	花棚雅子(作業療法士として実務経験8年) 坂東仁志(作業療法士として実務経験5年) 菅村拓也(作業療法士として実務経験5年) 里浦雅也(作業療法士として実務経験17年)				
科目概要	後期履修の2単位(60時間)科目であり、期末試験と実技課題などにより構成される。頚髄損傷、関節リウマチ、骨折などの整形外科疾患や内部障害を中心に実践的なアプローチを学び、作業療法評価(画像評価を含む)と基本的治療アプローチ、リスク管理等について理解を深める。				
一般目標	疾患の疾患特性を説明できる。 各疾患に対する作業療法の実践において適切な評価を説明、選択できる。 各疾患に対する作業療法の実践において必要な治療目標・治療計画を立案することができる。				
行動目標	疾患と病期に応じた評価を選択できる。 治療理論及び根拠に基づき、治療すべき優先順位を説明できる。 演習を通じて治療計画を立案できる。				
回数	講 義 内 容				
1	SCI総論				(花棚)
2～3	SCIの病態理解と評価				(花棚)
4～5	SCIのADL				(花棚)
6～7	SCIに対する作業療法				(花棚)
8～9	骨折に対する作業療法				(花棚)
10～11	骨折に対する作業療法				(里浦)
12	腱損傷に対する病態理解と作業療法の展開				(花棚)
13～15	末梢神経損傷・腕神経叢損傷に対する作業療法				(花棚)
16～17	熱傷に対する作業療法				(花棚)
18～19	関節リウマチの病態・症状と評価				(坂東)
20～21	関節リウマチに対する作業療法の展開				(坂東)
22～26	呼吸器・循環器疾患に対する作業療法				(坂東)
27～28	内部障害に対する作業療法				(菅村)
29～30	悪性腫瘍に対する作業療法				(菅村)
教科書 及び 参考書	標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第3版(医学書院) 標準作業療法学 身体機能作業療法学 第3版(医学書院) 病気がみえるvol.7 脳・神経 第2版(メディックケア)				
教授方法	講義・演習				
教材	スライド・プリント資料他				
成績評価	筆記試験・レポート課題				
配点割合	花棚 50%、坂東 30%、菅村 15%、外部 5%				
備考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

科目名	老年期作業治療学	単位数	1単位 30時間	開講年次	2学年 前期
担当教員	小林温子(作業療法士として実務経験5年)				
科目概要	老年期障害分野における作業療法の評価・治療について学ぶ。				
一般目標	老年期障害の作業療法実践に関する知識・技術を習得する。				
行動目標	老年期における障害学を学び、作業療法の役割・機能を理解する。 老年期対象者に必要な評価項目を選択し実施することができる。 評価結果から対象者の全体像を把握することができる。				
回数	講 義 内 容				
1	高齢者を取り巻く社会制度、老年期の作業療法とは				
2	高齢者の心身の加齢的变化、複合障害、廃用症候群				
3	老年症候群、高齢者に多い徴候や疾患				
4	認知症と軽度認知障害の概念				
5	認知症の症状理解、認知症の分類とその特徴①				
6	認知症の症状理解、認知症の分類とその特徴②				
7	認知症の症状理解、認知症の分類とその特徴③				
8	認知症の作業療法とは				
9	認知症の評価(概要、認知機能評価の種類)				
10	認知症の評価(演習:HDS・R・MMSE)				
11	認知症の評価(演習:NMスケール、N・ADL、その他)				
12	認知症に対する関わり方(ビデオ学習)				
13	コミュニケーション技法について、行動観察のポイントについて				
14	事例検討、介護保険制度の概要				
15	老年期作業療法の評価の流れ、まとめ				
教科書 及び 参考書	「標準作業療法学 高齢期作業療法学」医学書院 「高齢期における認知症のある人への作業療法」三輪書店				
教授方法	講義、演習				
教材	プリント資料、ビデオ等				
成績評価	前期試験				
備 考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

科目名	老年期作業治療学	単位数	1単位 30時間	開講年次	2学年 後期
担当教員	小林温子(作業療法士として実務経験5年)				
科目概要	老年期障害分野における作業療法の評価・治療について学ぶ。				
一般目標	老年期障害の作業療法実践に関する知識・技術を習得する。				
行動目標	対象者に応じた治療的レクリエーションを企画・実施することができる。 老年期障害学の知識を深め、評価を立案し実施することができる。 評価結果から対象者の全体像を把握し、治療プログラムを立案することができる。				
回数	講 義 内 容				
1	レクリエーションの治療的意義				
2	レクリエーション技法(回想法・RO法・その他)、レク実習の説明				
3	レクリエーション実習の企画と準備				
4	レクリエーション実習(デイサービス利用者との交流レク)				
5	レクリエーション実習(デイサービス利用者との交流レク)				
6	レクリエーション実習(デイサービス利用者との交流レク)				
7	評価技術(コース立方体組み合わせテスト)				
8	評価技術(GDS15、老研式活動能力指標)、事例検討				
9	実施場所に応じた治療援助の違い、事例検討				
10	レクリエーション技法(企画書・報告書の作成について)				
11	レクリエーション技法(レクリエーション企画書作成実習)				
12	レクリエーション技法(レクリエーション企画書作成実習)				
13	レクリエーション技法(レクリエーション企画書作成実習)				
14	企画書発表とディスカッション				
15	企画書発表とディスカッション				
教科書 及び 参考書	「標準作業療法学 高齢期作業療法学」 医学書院 「高齢期における認知症のある人への作業療法」 三輪書店 「レクリエーション 改訂第2版」 三輪書店				
教授方法	講義、グループ課題、レクリエーション実習など				
教材	プリント資料等				
成績評価	後期試験、レポート課題、出席点等				
備 考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。 本科目後期の課程では、老年期における障害学をより幅広く学習し、治療技法等について講義と演習を通して学習します。中でもレクリエーション実習においては、毎年デイサービス施設の利用者にご協力いただき、交流レクリエーション実習を実施しています。					

科目名	精神機能治療学	単位数	1単位 30時間	開講年次	2学年 前期
担当教員	森口智恵美(作業療法士として実務経験5年)				
科目概要	精神障害者を取り巻く社会情勢を学修する 精神科作業療法士に必要な知識技術を学修する				
一般目標	精神障害を生じる代表的疾患に対する基本的な作業療法について理解する				
行動目標	精神保健福祉の動向と作業療法の役割を説明することができる 精神科作業療法の基本的視点と回復段階に応じた関わりと方法を説明できる 精神科作業療法における治療構造が説明できる				
回数	講義内容				
1	精神保健医療福祉の動向と作業療法の役割 教科書①				
2	精神保健医療福祉の動向と作業療法の役割 教科書①				
3	作業療法実践の基本的視点 教科書①				
4	作業療法実践の基本的視点 教科書①				
5	急性期作業療法の考え方と実際 教科書①				
6	急性期作業療法の考え方と実際 教科書①				
7	急性期作業療法の考え方と実際 教科書①				
8	急性期作業療法の考え方と実際 教科書①				
9	作業を用いる療法の特性 教科書②				
10	作業療法の治療・支援機構と治療機序 教科書②				
11	作業療法の治療・支援機構と治療機序 教科書②				
12	作業療法の治療・支援機構と治療機序 教科書②				
13	作業療法の治療・支援機構と治療機序 教科書②				
14	統合失調症スペクトラムと作業療法 教科書②				
15	統合失調症スペクトラムと作業療法 教科書②				
教科書 及び 参考書	教科書① 生活を支援する精神障害作業療法 第2版 医歯薬出版株式会社 教科書② 精神障害と作業療法 新版 三輪書店 参考書 現代臨床精神医学 改定第12版 金原出版株式会社				
教授方法	講義・演習・グループワーク				
教材	パワーポイント、授業プリント、DVD				
成績評価	定期試験, レポート				
備考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

科目名	精神機能治療学	単位数	1単位 30時間	開講年次	2学年 後期
担当教員	森口智恵美(作業療法士として実務経験5年) 松下勝哉(作業療法士として実務経験13年)				
科目概要	精神科領域における作業療法を疾患別に学ぶ 精神科における退院支援から地域生活支援について学ぶ				
一般目標	精神障害を生じる代表的疾患に対する基本的な作業療法について理解する				
行動目標	精神科作業療法で主に関わる疾患に対する基本的な対応の仕方を説明できる 精神科作業療法士が退院支援から地域生活支援で果たせる役割やあり方を説明できる				
回数	講 義 内 容				
1	気分障害に関する知識と対応の基本				(森口)
2	気分障害に関する知識と対応の基本				(森口)
3	パーソナリティ障害に関する知識と対応の基本				(森口)
4	パーソナリティ障害に関する知識と対応の基本				(森口)
5	神経症性障害に関する知識と対応の基本				(森口)
6	摂食障害				(森口)
7	物質依存性障害				(森口)
8	てんかんの理解と作業療法				(森口)
9	てんかんの理解と作業療法				(森口)
10	退院支援の考え方と実際				(森口)
11	退院支援の考え方と実際				(森口)
12	地域生活支援の在り方と実際				(松下)
13	地域生活支援の在り方と実際				(松下)
14	地域生活支援の在り方と実際				(松下)
15	地域生活支援の在り方と実際				(松下)
教科書 及び 参考書	教科書 生活を支援する精神障害作業療法 第2版 医歯薬出版株式会社 参考書 精神疾患の理解と精神科作業療法 第3版 中央法規 参考書 現代臨床精神医学 改定第12版 金原出版株式会社				
教授方法	講義・演習・グループワーク				
教材	パワーポイント、授業プリント、DVD				
成績評価	定期試験, レポート				
配点割合	森口70% 松下30%				
備考					
当該科目は実務経験のある教員等による授業科目である。					

科目名	発達機能治療学	単位数	1単位 30時間	開講年次	2学年 前期
担当教員	花棚雅子(作業療法士として実務経験8年) 江本純造(作業療法士として実務経験18年)				
科目概要	正常発達および発達検査を学修する 発達障害の障害像、作業療法評価と治療について学修する				
一般目標	発達障害を生じる代表的疾患に対する基本的な作業療法について理解する				
行動目標	正常発達について、姿勢・運動、認知、心理・社会的側面より理解することができる 発達検査の種類と目的を説明することができる 発達障害に対する作業療法を説明することができる				
回数	講 義 内 容				
1	原始反射①				(花棚)
2	原始反射②				(花棚)
3	立ち直り反応				(花棚)
4	平衡反応				(花棚)
5	正常運動発達				(花棚)
6	認知機能の発達				(花棚)
7	発達検査(遠城寺式乳幼児分析的発達検査)				(花棚)
8	発達検査(デンバー式発達スクリーニング検査)①				(花棚)
9	発達検査(デンバー式発達スクリーニング検査)②				(花棚)
10	遊びの発達(保育所実習準備)①				(花棚)
11	遊びの発達(保育所実習準備)②				(花棚)
12	自閉症スペクトラムに対する評価と治療 講義・実技				(江本)
13	自閉症スペクトラムに対する評価と治療 講義・実技				(江本)
14	注意欠陥・多動性障害に対する評価と治療 講義・実技				(江本)
15	注意欠陥・多動性障害に対する評価と治療 講義・実技				(江本)
教科書 及び 参考書	参考書① イラストでわかる発達障害の作業療法 医歯薬出版株式会社 参考書② 標準作業療法学 発達過程作業療法学 第2版 医学書院				
教授方法	講義・演習・グループディスカッション				
教材	プリント				
成績評価	試験				
配点割合	花棚75% 外部25%				
備考					
当該科目は実務経験のある教員等による授業科目である。					

科目名	発達機能治療学	単位数	1単位 30時間	開講年次	2学年 後期
担当教員	花棚雅子(作業療法士として実務経験8年) 小林温子(作業療法士として実務経験5年) 江本純造(作業療法士として実務経験18年)				
科目概要	保育所実習を通して定型発達を学修する。 発達障害分野(運動器系)における対象疾患の障害像、作業療法評価と治療について学修する。				
一般目標	発達障害を生じる代表的疾患に対する基本的な作業療法について理解する				
行動目標	保育所実習において年齢に応じた遊びを提供し楽しませることができる。 定型発達について遠城寺、デンバーなどの根拠を用いて理解することができる。 発達障害分野(運動器系)に対する作業療法を説明することができる				
回数	講 義 内 容				
1	保育所実習リハーサル①				(花棚)
2	保育所実習リハーサル②				(花棚)
3	保育所実習				
4	保育所実習				
5	保育所実習				
6	保育所実習				
7	デュシェンヌ型筋ジストロフィーに対する評価と治療①				(小林)
8	デュシェンヌ型筋ジストロフィーに対する評価と治療②				(小林)
9	デュシェンヌ型筋ジストロフィーに対する評価と治療③				(小林)
10	デュシェンヌ型筋ジストロフィーに対する評価と治療④				(小林)
11	二分脊椎に対する評価と治療				(花棚)
12	CPに対する評価と治療①				(江本)
13	CPに対する評価と治療②				(江本)
14	CPに対する評価と治療③				(江本)
15	CPに対する評価と治療④				(江本)
教科書 及び 参考書	参考書① イラストでわかる発達障害の作業療法 医歯薬出版株式会社 参考書② 標準作業療法学 発達過程作業療法学 第2版 医学書院				
教授方法	講義・演習・グループディスカッション				
教材	プリント				
成績評価	定期試験、レポート課題				
配点割合	花棚50% 小林25% 外部25%				
備考					
当該科目は実務経験のある教員等による授業科目である。 2班に分かれて勝浦みかん保育園の協力のもと保育所実習を行います。					

科目名	高次脳機能治療学	単位数	1単位 30時間	開講年次	2学年 後期
担当教員	濱 敬介(作業療法士として実務経験6年)				
科目概要	高次脳機能障害に対する評価(画像評価を含む)・治療・援助の実践過程について学ぶ				
一般目標	高次機能障害の症状を理解し、評価・治療アプローチについて学習する				
行動目標	高次脳機能障害の機能障害別特性について説明することができる 機能障害別に適切な評価法を選択し、実施することができる 治療と援助の理論と原則について説明できる 機能障害別に治療計画を立案することができる				
回数	講 義 内 容				
1	評価の組み立て・観察の方法・神経心理学的検査の使い方				
2	脳の機能解剖および画像評価				
3	評価のまとめ・介入に繋げる解釈および治療と援助の理論と原則について				
4	各機能障害の症状と評価・アプローチ(注意障害)				
5	各機能障害の症状と評価・アプローチ(半側無視)				
6	各機能障害の症状と評価・アプローチ(視覚失認)				
7	各機能障害の症状と評価・アプローチ(頭部外傷)				
8	各機能障害の症状と評価・アプローチ(前頭葉障害)				
9	各機能障害の症状と評価・アプローチ(遂行機能障害)				
10	各機能障害の症状と評価・アプローチ(行動と感情の障害)				
11	各機能障害の症状と評価・アプローチ(記憶障害)				
12	各機能障害の症状と評価・アプローチ(失語症)				
13	各機能障害の症状と評価・アプローチ(失行症)				
14	事例検討				
15	まとめ				
教科書 及び 参考書	高次脳機能障害のリハビリテーション(第3版) 医学書院 PT・OT 基礎から学ぶ画像の読み方 第3版 医歯薬出版株式会社 高次脳機能障害マエストロシリーズ3・4 医歯薬出版(参考書) 高次脳機能障害学 第2版 医歯薬出版株式会社(参考書)				
教授方法	講義・演習・グループディスカッション				
教材	教科書、配布資料、ビデオ				
成績評価	試験・レポート課題				
備考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

科目名	障害別生活活動支援論	単位数	1単位 30時間	開講年次	2学年 前期
担当教員	小林温子(作業療法士として実務経験5年)				
科目概要	前後期履修の2単位科目。講義と演習を通して各種疾患の日常生活活動への影響を理解し、作業療法評価および治療・援助的介入について手法を学習する。 障害別に応じた起居・移乗動作パターンを学習し、福祉用具や生活環境の工夫などの自立支援および介護負担軽減の手技についても学習する。				
一般目標	主に中枢神経系疾患の日常生活活動支援について理解を深める。				
行動目標	障害種別・程度に合わせた日常生活活動の動作特性と諸問題について理解する。 障害種別・程度に合わせた日常生活活動の評価について理解する。 障害種別・程度に合わせた起居・移乗動作の動作パターンと介助方法について理解し説明・実演することができる。				
回数	講 義 内 容				
1	立位姿勢観察のポイント、歩行の観察ポイント				
2	正常歩行と異常歩行とは				
3	重心移動の運動学的要素について				
4	移動の障害別特徴、移動介助のパターンと方法(演習)				
5	臥位姿勢と寝返りの分析(基本的要素と障害像)				
6	寝返りから起き上がりの分析(基本的要素と障害像)				
7	座位姿勢と立ち上がりの分析(基本的要素と障害像)				
8	臥位からの起居動作(演習)				
9	移乗動作の種類と方法(演習)				
10	起居・移乗動作の方法(演習)				
11	動作分析の表現方法:起居動作、移乗動作				
12	動作分析の表現方法:セルフケア				
13	動作分析の表現方法:演習				
14	事例検討				
15	まとめ				
教科書 及び 参考書	教科書①:「PT・OTビジュアルテキスト ADL」 羊土社 教科書②:「PT・OTビジュアルテキスト 姿勢動作・歩行分析」 羊土社 プリント資料				
教授方法	講義・演習・実習				
教材	教科書、配布資料、視覚教材				
成績評価	前期試験、実技テスト、出席点				
備考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

科目名	障害別生活活動支援論	単位数	1単位 30時間	開講年次	2学年 後期
担当教員	小林温子(作業療法士として実務経験5年) 圓井美貴子(外部講師)				
科目概要	前後期履修の2単位科目。講義と演習を通して各種疾患の日常生活活動への影響を理解し、作業療法評価および治療・援助的介入について手法を学習する。 障害別に応じた起居・移乗動作パターンを学習し、福祉用具や生活環境の工夫などの自立支援および介護負担軽減の手技についても学習する。				
一般目標	身体障害各疾患における障害像をもとに日常生活の支援について理解する。				
行動目標	各疾患の障害によって引き起こされる生活障害を理解する。 各疾患の障害像に対する生活支援・訓練の手法について学習する。 事例の評価結果より課題と問題点を列挙し、生活支援の方法について検討できる。				
回数	講 義 内 容				
1	動作別・障害別に見た生活支援の実際(食事)				
2	動作別・障害別に見た生活支援の実際(更衣)				
3	動作別・障害別に見た生活支援の実際(排泄)				
4	動作別・障害別に見た生活支援の実際(整容)				
5	動作別・障害別に見た生活支援の実際(入浴)				
6	事例検討				
7	シーティングとポジショニングの基本的理解				
8	シーティングの評価(姿勢と体圧分散)				
9	シーティング適合技術(用具の理解)				
10	シーティング・ポジショニングの演習				
11	重度心身障害とは				
12	コミュニケーション支援の実際(圓井講師)				
13	コミュニケーション支援の実際(圓井講師)				
14	コミュニケーション障害の支援技術について				
15	まとめ				
教科書 及び 参考書	教科書①:「PT・OTビジュアルテキスト ADL」 羊土社 教科書②:「PT・OTビジュアルテキスト 姿勢動作・歩行分析」 羊土社 プリント資料				
教授方法	講義・演習・実習				
教材	教科書、配布資料、視覚教材(シーティング座圧分布計など)				
成績評価	後期試験、出席点、レポート課題(※外部講師講義については感想文提出)				
配点割合	小林90%、外部10%				
備考					
当該科目は実務経験のある教員等による授業科目である。					

科目名	作業療法臨床技術論	単位数	1単位 30時間	開講年次	2学年 前期
担当教員	坂東仁志(作業療法士として実務経験5年)				
科目概要	身体障害作業療法の目的や対象、治療のプロセスやリスク管理を学ぶ。 各疾患や障害の治療に共通した基本的なアプローチ法について学習する。				
一般目標	作業療法における基礎的治療技術の目的と実施方法について理解する。				
行動目標	身体障害作業療法の目的や治療プロセス、リスク管理について理解し説明できる。 関節可動域訓練や筋力増強訓練などの基本的なアプローチ法について理解し説明、実践することができる。				
回数	講 義 内 容				
1	身体機能作業療法の目的と方法、対象				
2	治療・評価方式、作業療法のプロセス、クリニカルリーズニングとリスク管理				
3	ボディメカニクス、運動制御理論と運動学習				
4	関節可動域の維持・拡大ー可動域制限の分類と機序ー				
5	関節可動域の維持・拡大ー評価・治療のための基礎知識ー				
6	関節可動域の維持・拡大ー治療手技と作業療法への関連ー				
7	筋力と筋持久力の維持・増強ー筋力・筋持久力低下の要因と原因ー				
8	筋力と筋持久力の維持・増強ー評価・治療のための基礎知識ー				
9	筋力と筋持久力の維持・増強ー治療手技と作業療法への関連ー				
10	筋緊張異常、不随意運動、協調運動障害とその治療①				
11	筋緊張異常、不随意運動、協調運動障害とその治療②				
12	感覚知覚再教育について①				
13	感覚知覚再教育について②				
14	廃用症候群への対応、物理療法の基礎				
15	まとめ				
教科書 及び 参考書	標準作業療法学 身体機能作業療法学 第3版(医学書院)				
教授方法	講義・実習				
教材	プリント等				
成績評価	期末試験				
備考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

科目名	作業療法臨床技術論	単位数	1単位 30時間	開講年次	2学年 後期
担当教員	花棚雅子(作業療法士として実務経験8年) 菅村拓也(作業療法士として実務経験5年)				
科目概要	機能代償の手段としての上肢スプリントの適合疾患、製作方法を学び、製作課題に取り組みます				
一般目標	疾患特性に応じた評価及び治療計画を立案できる 上肢スプリントをはじめとする代償方法の目的や適合技術を理解する 課題により製作技法を習得し、技能の向上を図る				
行動目標	スプリント療法の適合や目的を説明できる スプリント作製の知識や技術を習得する 上肢末梢神経損傷の回復段階に応じた治療プログラムを立案することができる				
回数	講義内容				
1	スプリント作製のための基礎知識				(花棚)
2	スプリント作製の基本技術①				(花棚)
3	スプリント作製の基本技術②—型紙の作り方—				(花棚)
4	リングスプリント製作実習				(花棚)
5	リングスプリント製作実習				(花棚)
6	コックアップスプリント製作実習①				(花棚)
7	コックアップスプリント製作実習②				(花棚)
8	コックアップスプリント製作実習③				(花棚)
9	コックアップスプリント製作実習④				(花棚)
10	コックアップスプリント適合判定とまとめ				(花棚)
11	末梢神経損傷に対する治療①				(菅村)
12	末梢神経損傷に対する治療②				(菅村)
13	各種スプリントの疾患適合について①				(菅村)
14	各種スプリントの疾患適合について②				(菅村)
15	まとめ				(花棚)
教科書 及び 参考書	熱可塑性スプリント作製マニュアル(三輪書店)				
教授方法	講義・製作実習				
教材	プリント資料				
成績評価	筆記試験・製作課題				
配点割合	花棚70%、菅村30%				
備考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。 スプリントの製作実習においては、身体機能治療学Ⅱの学習内容と合わせて学習することが望まれる。製作実習では、製作したスプリントが後期試験に配点される					

科目名	義肢装具学	単位数	1単位 30時間	開講年次	2学年 後期
担当教員	濱 敬介(作業療法士として実務経験6年) 小谷和男(義肢装具士として実務経験31年)				
科目概要	装具(スプリントを除く)の概要や代償的アプローチについて学ぶ				
一般目標	装具の構造・機能・適応について学習する				
行動目標	装具の構造や機能について説明できる 装具のチェックアウトについて説明できる 代表的疾患と装具の適応について説明できる				
回数	講 義 内 容				
1	装具学総論				(濱)
2	上肢の運動学				(濱)
3	上肢装具(アームスリング・三角巾等)				(濱)
4	上肢装具(BFO・サスペンションスリング等)				(濱)
5	下肢の運動学(歩行分析・正常歩行)				(濱)
6	下肢の運動学(歩行分析・片麻痺歩行等)				(濱)
7	下肢装具(長・短下肢装具の種類・構造・働きについて)				(濱)
8	下肢装具(//)				(濱)
9	代表的疾患と下肢装具の適応について				(濱)
10	代表的疾患と頸椎・体幹装具について				(濱)
11	体幹の運動学				(濱)
12	脊椎疾患についてのグループ学習				(濱)
13	グループ学習発表				(濱)
14	補装具給付制度の概要				(小谷)
15	装具療法の現状について				(小谷)
教科書 及び 参考書	義肢・装具のチェックポイント 医学書院 義肢装具学 医学書院(参考書) 装具治療マニュアル 医歯薬出版(参考書) 基礎運動学 医歯薬出版(参考書)				
教授方法	講義・演習				
教材	プリント 各種義肢・装具モデル				
成績評価	定期試験80% レポート課題20%				
備考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。 解剖学や運動学の基礎知識を必要とします。解剖学や運動学の教科書も用意のこと。					

科目名	地域作業療法支援論	単位数	1単位 30時間	開講年次	2学年 後期
担当教員	坂東仁志(作業療法士として実務経験5年)				
科目概要	地域作業療法の実践のために、その根幹にある社会背景や制度について学ぶ。 地域作業療法における具体的介入方法について学ぶ。				
一般目標	社会背景や制度、他職種との連携などについて学び、地域作業療法の実践のための基本的な知識を身につける。				
行動目標	地域作業療法の目的、現状について理解し説明できる。 地域作業療法の介入方法やその流れについて理解する。 「生活行為向上マネジメント」について理解し、説明できる。				
回数	講義内容				
1	地域リハビリテーション・地域作業療法 概論				
2	地域リハビリテーション・地域作業療法 概論				
3	社会保障制度について				
4	介護保険制度について				
5	支援・連携について				
6	地域における作業療法の実践について				
7	地域における作業療法の実践について				
8	生活行為向上マネジメント 概論①				
9	生活行為向上マネジメント 概論②				
10	生活行為向上マネジメント 概論③				
11	生活行為向上マネジメント 演習①				
12	生活行為向上マネジメント 演習②				
13	生活行為向上マネジメント 演習③				
14	生活行為向上マネジメント 演習④				
15	まとめ				
教科書 及び 参考書	標準作業療法学 地域作業療法学 第2版(医学書院) 事例で学ぶ生活行為向上マネジメント(医歯薬出版株式会社)				
教授方法	講義・演習				
教材	プリント資料等				
成績評価	筆記試験、レポート課題				
備考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

科目名	福祉用具適合論	単位数	1単位 30時間	開講年次	2学年 後期
担当教員	小林温子(作業療法士として実務経験5年)				
科目概要	障害・生活ニーズ別の作業療法におけるさまざまな福祉用具の適合についての知識・技術を学習する。				
一般目標	福祉用具に関する作業療法治療アプローチの知識や技術を習得する。				
行動目標	福祉用具の貸与・購入や福祉用具に関わる生活環境整備に関する給付制度について説明できる。 生活行為別、障害特性別の福祉用具について説明できる。 自助具作製においての知識と技術を習得する。				
回数	講義内容				
1	福祉用具の概要、関連する法律や制度				
2	介護保険制度と障害者総合支援法に関わる支援の実際、福祉用具に関連する職種				
3	道具の特性とは、福祉用具アセスメントの流れ				
4	住環境に関わる福祉用具、福祉用具使用上のリスク				
5	ベッド・褥瘡予防用具の適合技術				
6	ベッド周辺機器(移乗ボード・リフト)の適合技術				
7	移動支援用具(杖・歩行器・車椅子)の適合技術				
8	入浴・排泄動作の福祉用具の適合技術				
9	整容・更衣動作の福祉用具の適合技術				
10	食事・家事・その他動作の福祉用具の適合技術				
11	環境制御装置について、自助具について				
12	自助具作成実習①				
13	自助具作成実習①				
14	自助具作成実習②				
15	自助具作成実習②				
教科書 及び 参考書	教科書:「作業療法学全書 改訂第3版 第10巻 福祉用具の使い方・住環境整備」協同医書出版社 参考書:「ポケット版OT臨床ハンドブック 増補版」三輪書店 参考書:「手作り自助具の工作技術」三輪書店				
教授方法	講義、演習、事例検討、自助具作製実習				
教材	プリント資料、福祉用具モデル、視覚教材等				
成績評価	後期試験、自助具製作課題、出席点				
備考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

科目名	評価実習Ⅰ	単位数	2単位90時間	開講年次	2学年 前期
担当教員	森口智恵美(作業療法士として実務経験5年) 坂東仁志(作業療法士として実務経験5年) 小林温子(作業療法士として実務経験5年) 花棚雅子(作業療法士として実務経験8年) 濱 敬介(作業療法士として実務経験6年)				
科目概要	1期の臨床実習期間は14日間を原則とし、2期・2施設の臨床実習を行う。なお、臨床実習前に実習生の技術等に関して、実技試験等による評価を行い、直接対象者に接するに当たり、総合的知識及び基本的技能・態度を備えていることを確認する。また、実習生が診療チームの一員として加わり、臨床実習指導者の指導・監督の下で行う作業療法参加型臨床実習を基本とする。				
一般目標	典型的な障害特性を呈する対象者に対して、改善課題整理と目標設定、必要なプログラム立案ができるように評価能力を身につける。				
行動目標	1. 基本的態度 1) 常識的態度 : 職業人としての常識的態度を身につける。 2) 責任ある行動 : 専門職としての責任ある行動を身につける。 3) 自己管理 : 自己管理ができる。 4) 意欲 : 意欲的に取り組む姿勢(探求心・創造性)を身につける。 2. 評価における臨床技能／臨床思考過程 1) 評価計画 : 情報収集・面接・観察・検査測定ができる。 2) 評価実施 : 情報収集・面接・観察・検査測定ができる。 3. 管理運営 1) 物品管理 : 治療器具・道具を安全に使用し管理ができる。 2) リスク管理 : リスク管理について理解できる。 3) 記録 : 記録文書(電子データ含む)の管理が適切にできる。 4) 連携 : 他部門(他職種)との連携がとれる。 5) 施設理解 : 施設の特徴について理解できる。				
実 施 内 容					
評価実習Ⅰ	実習前オリエンテーション				
	施設別オリエンテーション				
	実習前評価Ⅰ(共通演習)				
	実習前評価Ⅱ(分野別演習)				
	評価実習Ⅰ				
	実習後セミナー				
	実習後評価				
教授方法	講義・演習・臨床実習・グループディスカッション・発表				
成績評価	臨床実習指導者の意見を徴したうえで、学科長、及び専任教員が協議して行う。				
備考					

科目名	評価実習Ⅱ	単位数	2単位90時間	開講年次	2学年 後期
担当教員	森口智恵美(作業療法士として実務経験5年) 坂東仁志(作業療法士として実務経験5年) 小林温子(作業療法士として実務経験5年) 花棚雅子(作業療法士として実務経験8年) 濱 敬介(作業療法士として実務経験6年) 菅村拓也(作業療法士として実務経験5年)				
科目概要	1期の臨床実習期間は14日間を原則とし、2期・2施設の臨床実習を行う。なお、臨床実習前に実習生の技術等に関して、実技試験等による評価を行い、直接対象者に接するに当たり、総合的知識及び基本的技能・態度を備えていることを確認する。また、実習生が診療チームの一員として加わり、臨床実習指導者の指導・監督の下で行う作業療法参加型臨床実習を基本とする。				
一般目標	典型的な障害特性を呈する対象者に対して、改善課題整理と目標設定、必要なプログラム立案ができるように評価能力を身につける。				
行動目標	1. 基本的態度 1) 常識的態度 : 職業人としての常識的態度を身につける。 2) 責任ある行動 : 専門職としての責任ある行動を身につける。 3) 自己管理 : 自己管理ができる。 4) 意欲 : 意欲的に取り組む姿勢(探求心・創造性)を身につける。 2. 評価における臨床技能／臨床思考過程 1) 評価計画 : 情報収集・面接・観察・検査測定ができる。 2) 評価実施 : 情報収集・面接・観察・検査測定ができる。 3. 管理運営 1) 物品管理 : 治療器具・道具を安全に使用し管理ができる。 2) リスク管理 : リスク管理について理解できる。 3) 記録 : 記録文書(電子データ含む)の管理が適切にできる。 4) 連携 : 他部門(他職種)との連携がとれる。 5) 施設理解 : 施設の特徴について理解できる。				
実 施 内 容					
評価実習Ⅱ	実習前オリエンテーション				
	施設別オリエンテーション				
	実習前評価Ⅱ(分野別演習)				
	評価実習Ⅱ				
	実習後セミナー				
	実習後評価				
教授方法	講義・演習・臨床実習・グループディスカッション・発表				
成績評価	臨床実習指導者の意見を徴したうえで、学科長、及び専任教員が協議して行う。				
備考					

作業療法専門分野 3 年

科目名	臨床研究・管理運営論	単位数	1単位 30時間	開講年次	3学年 後期
担当教員	濱 敬介(作業療法士としての実務経験6年)				
科目概要	作業療法研究の意義や目的・方法について理解し将来の研究活動に繋げる 作業療法研究の学習の一貫として症例報告のまとめを行う 作業療法部門の管理・運営、作業療法実践における職業倫理やリスクマネジメントなどについて学ぶ。				
一般目標	作業療法研究の意義や目的・方法を習得する 作業療法部門の管理・運営、リスクマネジメント、作業療法士としての職業倫理等の必要性について理解し、基本的知識を習得する				
行動目標	研究の意義や方法について説明することができる 症例報告の原稿を作成することができる 作業療法部門の管理・運営について説明することができる 作業療法を実施する際のリスクマネジメントについて説明できる				
回数	講 義 内 容				
1	リスクマネジメント				
2	作業療法士としての職業倫理				
3	文献抄読①				
4	文献抄読②				
5	文献抄読③				
6	文献抄読④				
7	総合臨床実習第Ⅰ期～症例検討～				
8	総合臨床実習第Ⅰ期～症例検討～				
9	総合臨床実習第Ⅰ期～全体症例報告会				
10	総合臨床実習第Ⅰ期～全体症例報告会				
11	総合臨床実習第Ⅱ期～症例検討～				
12	総合臨床実習第Ⅱ期～症例検討～				
13	総合臨床実習第Ⅱ期～全体症例報告会～				
14	総合臨床実習第Ⅱ期～全体症例報告会～				
15	作業療法における研究法の基礎				
教科書 及び 参考書	標準作業療法学・作業療法概論 医学書院 作業療法士のための研究法入門 三輪書店(参考書)				
教授方法	講義・演習（症例報告の作成にあたっては、各担当教員からの個別指導となる）				
教材	プリント・各種文献				
成績評価	文献抄読課題、症例報告課題、試験(リスクマネジメント・研究法)				
備考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

科目名	臨床作業療法学	単位数	1単位 30時間	開講年次	3学年 後期
担当教員	花棚雅子(作業療法士としての実務経験8年) 森口智恵美(作業療法士としての実務経験5年) 小林温子(作業療法士としての実務経験5年) 坂東仁志(作業療法士としての実務経験5年) 濱 敬介(作業療法士としての実務経験6年)				
科目概要	本講義は1単位(30時間)科目であり、学内講義と演習課題により構成されます。身体障害や老年期障害、精神障害に対する作業療法について、評価から治療への過程について理解を深めます。				
一般目標	各障害領域における臨床的実践アプローチについて説明できる				
行動目標	身体障害分野における治療プログラムの立案ができる 精神障害分野における治療プログラムの立案ができる				
回数	講 義 内 容				
1	治療計画の立案のポイント(SCI・整形)				(花棚)
2	治療計画の立案のポイント(SCI・整形)				(花棚)
3	治療計画の立案のポイント(SCI・整形)				(花棚)
4	治療計画の立案のポイント(SCI・整形)				(花棚)
5	治療計画の立案のポイント(SCI・整形)				(花棚)
6	治療計画の立案のポイント(精神疾患全般)				(森口)
7	治療計画の立案のポイント(精神疾患全般)				(森口)
8	治療計画の立案のポイント(精神疾患全般)				(森口)
9	治療計画の立案のポイント(精神疾患全般)				(森口)
10	治療計画の立案のポイント(CVA)				(坂東)
11	治療計画の立案のポイント(CVA)				(坂東)
12	治療計画の立案のポイント(認知症)				(小林)
13	治療計画の立案のポイント(認知症)				(小林)
14	治療計画の立案のポイント(高次脳機能障害)				(濱)
15	治療計画の立案のポイント(高次脳機能障害)				(濱)
教科書 及び 参考書	各関連教科書				
教授方法	講義 演習				
教材	ビデオ プリント				
成績評価	後期試験				
配点割合	花棚35%、森口20%、小林15%、坂東15%、濱15%				
備考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

科目名	作業療法治療技術実践論	単位数	1単位 30時間	開講年次	3学年 後期
担当教員	花棚雅子(作業療法士として実務経験8年) 濱 敬介(作業療法士として実務経験6年) 小林温子(作業療法士として実務経験5年) 飯藤大和(看護師として実務経験13年)				
科目概要	作業療法の各領域における治療・援助の実践過程について学ぶ				
一般目標	障害領域における作業療法の臨床的実践アプローチについて学ぶ				
行動目標	切断に対するリハビリテーションや作業療法について説明することができる 各種整形疾患に対する作業療法について説明することができる 演習により吸引技法を実践することができる				
回数	講 義 内 容				
1	義手の分類・構成要素				(濱)
2	義手の分類・構成要素				(濱)
3	適合検査・切断レベルに応じた義手の処方				(濱)
4	適合検査・切断レベルに応じた義手の処方				(濱)
5	切断者に対するリハビリテーション				(濱)
6	切断者に対するリハビリテーション				(濱)
7	脊髄損傷に対する作業療法の実践①				(花棚)
8	脊髄損傷に対する作業療法の実践②				(花棚)
9	骨折に対する作業療法の実践①				(花棚)
10	骨折に対する作業療法の実践②				(花棚)
11	末梢神経損傷に対する作業療法の実践①				(花棚)
12	末梢神経損傷に対する作業療法の実践②				(花棚)
13	呼吸器の基礎知識について				(小林)
14	吸引の実際について				(飯藤)
15	吸引の実際について				(飯藤)
教科書 及び 参考書	各関連教科書				
教授方法	講義・演習				
教材	プリント配付				
成績評価	試験、レポート課題、感想文等				
配点割合	花棚40%、濱40%、小林・外部20%				
備考					
当該科目は実務経験のある教員等による授業科目である。					

科目名	総合作業療法学	単位数	3単位90時間	開講年次	3学年 後期
担当教員	森口智恵美(作業療法士として実務経験5年) 坂東仁志(作業療法士として実務経験5年) 小林温子(作業療法士として実務経験5年) 花棚雅子(作業療法士として実務経験8年) 濱 敬介(作業療法士として実務経験6年) 菅村拓也(作業療法士として実務経験5年)				
科目概要	作業療法の各対象領域において、評価及び治療の実践について臨床実習の経験に基づき知識と経験の再統合を図り、資格取得後に臨床現場で作業療法が実施できる事を目標とする。				
一般目標	各領域における臨床実践について述べる事ができる。				
行動目標	各疾患に応じた評価を選択することができる。 各疾患の回復段階、予後予測に則した治療計画及び治療実践について説明できる。 社会資源の活用を含む、対象者の主体的生活の獲得を目標とした援助を考察できる。				
回数	講 義 内 容				
1～8	精神障害領域の作業療法実践				(森口)
9～16	身体障害領域の作業療法実践・総論1				(坂東)
17～23	老年期領域の作業療法実践				(小林)
24～25	発達障害の作業療法実践				(花棚)
26～30	身体障害領域の作業療法実践・総論2				(花棚)
31～38	身体障害領域の作業療法実践・総論3				(濱)
39～45	身体障害領域の作業療法実践・総論4				(菅村)
教科書 及び 参考書	各領域に該当する現在までの教科書				
教授方法	講義				
教材	パワーポイント、授業プリント				
成績評価	定期試験				
配点割合	森口20% 坂東20% 小林15% 花棚15% 濱15% 菅村15%				
備 考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

科目名	職業関連活動論	単位数	1単位 30時間	開講年次	3学年 後期
担当教員	森口智恵美(作業療法士として実務経験5年)				
科目概要	就労支援に関する知識・技術を学び、職業リハビリテーションでの課題を理解する。				
一般目標	就労支援領域における基本的な作業療法について理解できる				
行動目標	就労支援の概要と意義を説明できる 職業リハビリテーションにおける作業療法士の役割を説明できる 障害者就労支援における現状と課題を説明できる				
回数	講義内容				
1	文献抄読				
2	文献抄読				
3	文献抄読				
4	文献抄読				
5	職業関連活動概説				
6	障害者と職業				
7	障害者雇用事例リファレンスサービス 事例検討				
8	障害者雇用事例リファレンスサービス 事例検討				
9	障害者福祉サービス事業所 あつぷる 施設見学				
10	障害者福祉サービス事業所 あつぷる 施設見学				
11	徳島障害者職業センター 施設見学				
12	就労支援のプロセス①				
13	就労支援のプロセス②				
14	就労支援と作業療法				
15	統合失調症の就労支援				
教科書 及び 参考書	教科書:地域作業療法学 第2版 医学書院 参考書:作業療法学全書 改訂版3版 職業関連活動 協同医書出版社				
教授方法	講義、施設見学、グループワーク、文献抄読				
教材	パワーポイント、授業プリント				
成績評価	定期試験, レポート課題				
備考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。 授業の一部を利用して、就労継続支援B型施設と障害者職業センターの見学を実施します。挨拶を励行し、礼節ある行動に心がけてください。体調管理に気をつけ欠席のないように注意してください。					

科目名	総合臨床実習	単位数	18単位810時間	開講年次	3学年 後期
担当教員	森口智恵美(作業療法士として実務経験5年) 坂東仁志(作業療法士として実務経験5年) 小林温子(作業療法士として実務経験5年) 花棚雅子(作業療法士として実務経験8年) 濱 敬介(作業療法士として実務経験6年) 菅村拓也(作業療法士として実務経験5年)				
科目概要	1期の臨床実習期間は51日間を原則とし、2期・2施設の臨床実習を行う。なお、臨床実習前に実習生の技術等に関して、実技試験等による評価を行い、直接対象者に接するに当たり、総合的知識及び基本的技能・態度を備えていることを確認する。また、実習生が診療チームの一員として加わり、臨床実習指導者の指導・監督の下で行う作業療法参加型臨床実習を基本とする。				
一般目標	典型的な障害特性を呈する対象者に対して、障害像の把握、治療目標及び治療計画の立案、治療実践並びに治療効果判定を実施することができる。				
行動目標	1. 基本的態度 1) 常識的態度 : 職業人としての常識的態度を身につける。 2) 責任ある行動 : 専門職としての責任ある行動を身につける。 3) 自己管理 : 自己管理ができる。 4) 意欲 : 意欲的に取り組む姿勢(探求心・創造性)を身につける。 2. 評価における臨床技能／臨床思考過程 1) 評価計画 : 情報収集・面接・観察・検査測定ができる。 2) 評価実施 : 情報収集・面接・観察・検査測定ができる。 3) 全体像 : 評価結果を整理し全体像を把握することができる。 4) 目標 : 目標を設定することができる。 5) 介入プログラム : 介入プログラムを立案することができる。 3. 介入における臨床技能／臨床思考過程 1) 介入環境 : 介入環境の設定ができる。 2) 介入 : 介入プログラムを遂行できる。 4. 管理運営 1) 物品管理 : 治療器具・道具を安全に使用し管理ができる。 2) リスク管理 : リスク管理について理解できる。 3) 記録 : 記録文書(電子データ含む)の管理が適切にできる。 4) 連携 : 他部門(他職種)との連携がとれる。 5) 施設理解 : 施設の特徴について理解できる。				
実 施 内 容					
総合臨床実習 第1期		実習前オリエンテーション			
		施設別オリエンテーション			
		実習前評価Ⅰ(共通演習)			
		実習前評価Ⅱ(分野別演習)			
		総合臨床実習 第1期			
		実習後セミナー			
		実習後評価			
総合臨床実習 第2期		実習前オリエンテーション			
		施設別オリエンテーション			
		実習前評価Ⅱ(分野別演習)			
		総合臨床実習 第2期			
		実習後セミナー			
		実習後評価			
教授方法	講義・演習・臨床実習・グループディスカッション・発表				
成績評価	臨床実習指導者の意見を徴したうえで、学科長、及び専任教員が協議して行う。				
備考					

学校法人 勝浦学園

徳島医療福祉専門学校 作業療法学科

〒771-4307

徳島県勝浦郡勝浦町大字三溪字平 128-1

TEL (0885)-42-4810 FAX (0885)-42-4815